

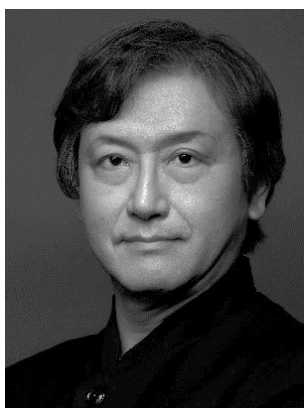
# Contents

オペラ芸術監督 大野和士 .....	2
<hr/>	
2021/2022シーズン オペラ ラインアップ .....	4
チェネレントラ .....	5
オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World	
ニュルンベルクのマイスタージンガー ..	10
蝶々夫人 .....	16
さまよえるオランダ人 .....	20
愛の妙薬 .....	24
椿姫 .....	28
ばらの騎士 .....	32
魔笛 .....	37
オルフェオとエウリディーチェ .....	41
ペレアスとメリザンド .....	45
<hr/>	
令和3年度公演 .....	50
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ	
Super Angels スーパーエンジェル .....	51
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021 (新国立劇場公演)	
カルメン .....	60
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021 (ロームシアター京都公演)	
ドン・パスクワーレ .....	62
<hr/>	
公演一覧(1997.10~2021.7) .....	64

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性があります。  
何卒ご承知おきください。

## 2021/2022 シーズン オペラ

### オペラ芸術監督 大野和士



オペラを愛する全ての皆様、新国立劇場を支援して下さる全ての皆様へ。  
全世界の人々にとりまして出口の見えない日々が続いておりますが、皆様方におかれましては、いつか再び光が射す日を心より待ち望んでおられること  
と思います。

オペラの歴史を紐解くと、そこには様々な困難を乗り越えながら新しい歴史  
を刻んできた 軌跡を見ることができます。新国立劇場の 2021/2022 シーズン  
に並べました 4 つの新制作の作品には、その意味で、ある関連性を見いだすこ  
とができ興味を惹かれます。

グルックのオペラ改革はよく知られています。17 世紀に始まったオペラは 18 世紀にはバロック・オペラ  
の興隆があり、カストラートの妙技に喝采が送られた反面、作曲家や台本作家が添え物の地位に甘んじまし  
た。そこに現れたのがグルック。ドラマの必然性から生まれる音楽劇こそが創造されるべきだという考えから、  
オーケストラの重要性をぐっと引き上げ、歌手には音楽と言葉の結び付きによって生まれる美しさを要求し  
ました。それは今では当たり前のことですが、それを歴史上初めて行ったグルックは、守旧派から大変な妨害  
を受けながらも、「ある時、誰かが規則を破り、その効果を最大限に発揮させる新しい規則を創らなければ」  
と信念を貫きました。その歴史的出発点となったのが『オルフェオとエウリディーチェ』。2019/2020 シーズ  
ン、バロック・オペラシリーズの第 1 作目として予定していた、ヘンデルの『ジュリオ・チェーザレ』が別  
のシーズンへの延期予定となった結果、今回がそれに代わる第一弾となります。演出は我が国の誇る舞踊家、  
演出家の勅使川原三郎。指揮は、才能溢れる鈴木優人。カウンターテナーの第一人者ザッツのオルフェオ。  
オーストラリアの名花ウィルソンのエウリディーチェ。ウィーン原典版と、舞踊の入るパリ版両方を巧みに  
編み、「革命的ドラマ」の真髄に迫ります。

さて、後世、このグルックの意思を引き継いだのは誰だったのでしょうか。「グルックが生きていたら私のこ  
とを自分の息子だと思っただろう」と言って、『オルフェオとエウリディーチェ』を自ら編曲し、パリで指揮  
したのはベルリオーズ。その聴衆の中の一人にワーグナーがいました。この時ワーグナーは未だ亡命中の身  
であり、『ローエングリン』のリスト指揮による初演も聴くことができず、『タンホイザー』パリ版初演が大  
失敗に終わるなど、さすらいの空っ風にさらされたりもしていましたが、グルックを起源とする“詩と音楽  
の織りなす大音楽劇”の構想が練られたのはまさにこの苦難の時期で、演奏の機会がいつ訪れるかわからな  
いにも関わらず、『トリスタンとイゾルデ』や『ニーベルングの指環』の前半 2 作も完成。ルートヴィヒ II 世  
の出現を待つばかりとなったのでした。そして晴れて亡命の身から解放された後に一気に書かれたのが『ニ  
ュルンベルクのマイスタージンガー』。マイスターたちが“詩と歌の粋を競う”この楽劇が、昨年の公演中止  
を乗り越え、無事に新シーズンへの移行が決まったことを嬉しく思っています。東京文化会館との共同制作  
として、文化会館では 8 月に 2 回公演、新国立劇場では 11 月から 12 月にかけての 5 回公演となります。ハ  
ンス・ザックスの名セリフ「芸術と民は共に育ち、咲きほこらん」が満を持して響き渡ることでしょ  
う。

ベルリオーズやワーグナーがまだ少年だった頃、一人の若いイタリア人がオペラ作曲家としてとてつもな  
い速さで名声を高めていました。音楽学校での教育は一応受けましたが、彼を本当に教育したのは広い世間  
でした。少しの失敗から多くを学び、14 歳でオペラを書き始めたロッシーニは、イギリス国王と接見した際  
も、特に敬意を表するわけでもなく、自らの価値観に忠実でした。王制が揺らいでいく中、なんの後ろ盾も  
ない個人として生き続け、酸いも甘いも噛み分けて、庶民の心のひだをオペラに紡ぐ。弱冠 37 歳でオペラ  
の筆を折ってしまったのは、あまりに多くの喜びと悲しみを若い時に背負いこんだからかもしれません。

そのロッシーニ自身を“シンデレラ”たらしめたといえる『チェネレントラ』の主演アンジェリーナは、2019/2020 シーズン『セビアの理髪師』で、海外の歌手たちと丁々発止と渡り合って満場を沸かせた脇園彩。指揮はイタリアの巨匠ベニーニ、演出はローマ育ちの栗國淳というスペシャルコンビでお送りします。

グルックの歴史的業績に対して、それをかえって苦々しく、「彼はフランス音楽を破壊しワーグナーへの道を開いた」と非難したのはドビュッシーでした。『トリスタン』全曲を譜面なしでピアノで弾けるほど熱烈なワグネリアンだった彼ですが、そのうちドイツ的なライトモチーフによる説明的な作法や、オーケストラの大音響の世界から身を遠ざけ、フランス語の特性を最大限に生かした歌と、人間の意識下の世界をオーケストラが表現する20世紀の大傑作『ペレアスとメリザンド』が生まれました。が、しかし、グルックの改革とはまた次元の異なる感性による新しいオペラが初演されるまでには、メーテルリンクの戯曲台本を作曲者が入手してから10年に及ぶ歳月がかかり、ドビュッシーもまた、新しいものを世に問う苦しみを味わったのでした。リヒター、ヴルシュ、ナウリ、浜田理恵ら、このプロダクションのために世界的歌手が東京に結集します。

レパートリー作品にもキャスティングに工夫を凝らし、一味違った姿をお届けします。『蝶々夫人』は中村恵理のタイトルロールにご期待ください。名テノール、ガンチとの二重唱を下野竜也の熱いタクトが支えます。『さまよえるオランダ人』の指揮を執るのは、巨匠ジェームズ・コンロン。待望の新国立劇場初登場です。現代最高のオランダ人歌いの一人シリンス、ゼンタのヴェルシェンバッハ、ダーラントの妻屋が揃い、若きワーグナーの幻想と呪われた愛の世界を描きます。『愛の妙薬』指揮のランツィロッタは、最も勢いのあるイタリア人若手の一人。ネモリーノ役のガテルら3人の男声名優陣に囲まれ、『アルマゲドンの夢』で絶唱を披露したアゾーディが、今回はコロラトゥーラで輝きます。『椿姫』タイトルロール、ハルティヒは、メト、ウィーン、コヴェントガーデン、スカラ座と、まさに“花から花へ”の大活躍。新国立劇場初登場に胸騒ぐ方々も多いのでは。『ばらの騎士』の指揮は生粋のウィーンっ子、ゲッツェル。ウィーン国立歌劇場の『ばら』の指揮を一身に引き受けている彼の登場は必見です。ダッシュ、カタールエワ、そして安井陽子と揃った主演級の女声陣だけに目を向けても魅力的です。そしてウィリアム・ケントリッジの『魔笛』が帰ってきます。幻想的でメルヘンの香り高いドロイングをバックに、選りすぐられた日本人キャストとオレグ・カエターニが繰り広げる秘境オペラにご期待を。

渋谷慶一郎作曲『Super Angels スーパーエンジェル』も今年8月に待望の上演。AIアンドロイドと少年アキラの友情、それを支える子ども達の合唱。先鋭的な電子音楽や“初音ミク”主演による人間不在のボーカロイド・オペラ、世界初のアンドロイド・オペラで成功を収めた渋谷慶一郎による初の、オーケストラと合唱を擁するオペラ。映像や舞台デザインも最先端です。どうか、多くの若い方々、子どもたち、皆さんこぞって劇場にお越しください。

終わりに、新国立劇場と私は、来シーズンのプロダクションが本来の姿で演奏されることを、まずは心より願っております。しかし、その日の到来するのが少しばかり遅くなったとしても、できる限りの最良の形で、皆様に喜びをお届けする劇場として、一作一作に惜しみなく力を注いで参りたいと考えております。

#### 〈プロフィール〉

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グライントボン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨンをからリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』を指揮しており、今後は20/21シーズン『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、21/22シーズン『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』を指揮する予定。

2021/2022 シーズン オペラ ラインアップ  
〈新制作4演目／レパートリー6演目 合計10演目45公演〉

2021年10月

新制作

## チェネレントラ

La Cenerentola | G. ロッシーニ  
6回公演

2021年11月～12月

新制作

オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇄Tokyo⇄World

## ニュルンベルクのマイスタージンガー

Die Meistersinger von Nürnberg | R. ワーグナー  
5回公演

2021年12月

## 蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ  
4回公演

2022年1月～2月

## さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer | R. ワーグナー  
4回公演

2022年2月

## 愛の妙薬

L'elisir d'amore | G. ドニゼッティ  
4回公演

2022年3月

## 椿姫

La Traviata | G. ヴェルディ  
5回公演

2022年4月

## ばらの騎士

Der Rosenkavalier | R. シュトラウス  
4回公演

2022年4月

## 魔笛

Die Zauberflöte | W. A. モーツァルト  
5回公演

2022年5月

新制作

## オルフェオとエウリディーチェ

Orfeo ed Euridice | C. W. グルック  
3回公演

2022年7月

新制作

## ペレアスとメリザンド

Pelléas et Mélisande | C. ドビュッシー  
5回公演

# チェネレントラ

La Cenerentola

オペラパレス | 6回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2021年8/21(土)~8/23(月)

●一般発売日: 2021年8/28(土)

初演: 1817年1月25日/ヴァッレ劇場

作曲: ジョアキーノ・ロッシーニ

台本: ヤーコポ・フェレッティ

## プロダクションについて

シーズン開幕には、ベルカント・オペラの傑作『チェネレントラ』を新制作します。ヒット作を連発したロッシーニのオペラ・ブッフアの頂点となる作品で、おなじみのシンデレラの物語が極上のオペラとなりました。愉快的重唱、華麗な装飾満載のアリア、アジリタで盛り上がるクライマックスと、ロッシーニの魅力あふれる傑作です。フィナーレのチェネレントラのアリア「苦しみと涙のうちに生まれ」は、メゾソプラノの絢爛たる名アリアとして独立して演奏されることも多い決定的名曲です。

演出には、イタリア・オペラの読み込みにかけては随一の演出家、栗國淳があたります。タイトルロールのアンジェリーナは、イタリアを拠点に年々成熟を見せる協園彩。王子ラミーロには、2020年『セビリアの理髪師』で協園との名コンビぶりを見せた破格のロッシーニ歌いルネ・バルベラが登場します。男爵ドン・マニフィコには名ブッフオのアレッサンドロ・コルベッリ、アリドーロにはベルカントの旗手として躍進中のガブリエーレ・サゴーナが登場。軽妙なアンサンブルに期待が募ります。年々勢いにのる新国立劇場のベルカント・オペラ、シーズン開幕を飾る『チェネレントラ』がオペラの楽しさを存分に伝えます。

## あらすじ

【第1幕】ドン・マニフィコ男爵の屋敷。男爵の今は亡き後妻の連れ子アンジェリーナは“チェネレントラ（灰かぶり）”と呼ばれて使用人のように扱われ、姉となった男爵の娘クロリンダとティーズベを世話している。心優しいアンジェリーナは物乞いの男に水と食べ物を与える。彼は実は王子ラミーロの家庭教師アリドーロで、貧者に身をやつして王子の花嫁を探しているのだ。従者に扮した王子が屋敷に入り込み、アンジェリーナと一目で恋に落ちる。一方、王子の従者ダンディーニが王子に成りすまして現れ、一家を城の舞踏会に招く。アンジェリーナも行きたがるがマニフィコが拒む。アリドーロはこっそりアンジェリーナを舞踏会に誘う。城の舞踏会では、姉妹2人が偽王子（実はダンディーニ）を取り合うが、突然現れた絶世の美女（アンジェリーナ）に皆が驚く。

【第2幕】城の中。王子姿のダンディーニが出てきてアンジェリーナに求愛するが、彼女は従者を愛しているのだと語る。その言葉を耳にしたラミーロは、早速出てきて求婚する。すると、彼女は腕輪を差し出し、自分を探すよう告げて姿を消す。屋敷に帰った男爵と姉たちはアンジェリーナに八つ当たりする。外は嵐になり、馬車が転覆、乗っていたダンディーニが屋敷を訪れる。王子も次いで現れ、アンジェリーナの腕にもう片方の腕輪を見つけて再会を果たし、城に連れ帰る。王宮では、幸せを手にしたアンジェリーナが父や姉たちを許し、フィナーレの大アリア「苦しみと涙のうちに生まれ」を歌って幕となる。

ジョアキーノ・ロッシーニ  
**チェネレントラ**

Gioachino ROSSINI / La Cenerentola

全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 .....	マウリツィオ・ベニーニ
Conductor	Maurizio BENINI
演出 .....	粟國 淳
Production	AGUNI Jun
美術・衣裳 .....	アレッサンドロ・チャンマルーギ
Set and Costume Design	Alessandro CIAMMARUGHI
照明 .....	大島祐夫
Lighting Design	OSHIMA Masao
ドン・ラミーロ .....	ルネ・バルベラ
Don Ramiro	René BARBERA
ダンディーニ .....	上江隼人
Dandini	KAMIE Hayato
ドン・マニフィコ .....	アレッサンドロ・コルベッリ
Don Magnifico	Alessandro CORBELLI
アンジェリーナ .....	脇園 彩
Angelina	WAKIZONO Aya
アリドーロ .....	ガブリエーレ・サゴーナ
Alidoro	Gabriele SAGONA
クロリンダ .....	高橋薫子
Clorinda	TAKAHASHI Nobuko
ティーズベ .....	齊藤純子
Tisbe	SAITO Junko
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2021年	10月	1日(金)19:00	3日(日)14:00
		6日(水)19:00	9日(土)14:00
		11日(月)14:00	13日(水)14:00

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

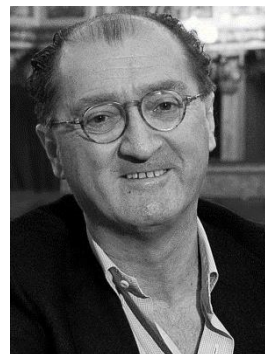
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

**指揮:マウリツィオ・ベニーニ**

Conductor : Maurizio BENINI

メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界の主要歌劇場、音楽祭で活躍する指揮者。ボローニャ歌劇場『ブルスキーノ氏』でデビュー後、ミラノ・スカラ座に1992年『湖上の美人』でデビュー。スカラ座、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、英国ロイヤルオペラ、エディンバラフェスティバルなどで活躍。ボローニャ歌劇場管弦楽団、サンチャゴ・ムニシパル劇場首席指揮者、ナポリ・サンカルロ歌劇場首席客演指揮者などを歴任。最近では、メトロポリタン歌劇場『ルチア』『ドン・パスクワレ』『ロベルト・デヴェリュー』『セビアの理髪師』『清教徒』『セミラーミデ』『マノン』、アムステルダムで『イル・トロヴァトーレ』、英国ロイヤルオペラ『ナブッコ』『椿姫』『シチリアの晩鐘』、チューリヒ歌劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』、テアトロ・レアル『イル・トロヴァトーレ』『海賊』、モンテカルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』『ファルスタッフ』、パリ・オペラ座『イル・トロヴァトーレ』、オランダ国立オペラ『セビアの理髪師』『ナブッコ』、英国ロイヤルオペラ『椿姫』、ブエノスアイレス・コロソ歌劇場『リゴレット』、チューリヒ歌劇場『夢遊病の女』を指揮。新国立劇場には98年『セビアの理髪師』以来の登場となる。



**演出:粟國 淳**

Production : AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。新国立劇場ではF.ゼッフィレリ、L.ロンコーニなど巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイーダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場オペラ『アイナダマール』（日本初演）『セビアの理髪師』、紀尾井ホールバロックオペラ『オリンピアアデ』など多数の作品を手掛ける。海外ではサッサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』、スロベニア国立マリボール歌劇場『ホフマン物語』を演出している。2011年度エクソンモービル音楽賞奨励賞を受賞。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビアの理髪師』『おさん』『フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ』、小劇場オペラ『外套』を演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。



**ドン・ラミーロ:ルネ・バルベラ(テノール)**

Don Ramiro : René BARBERA

アメリカ出身。シカゴ・リリック・オペラ・ライオン・オペラセンター修了。2011年オペラリアコンクール3部門を単独で受賞。シカゴ・リリック・オペラ『ドン・パスクワレ』エルネスト、シアトル・オペラ『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、ロサンゼルス・オペラ『セビアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、サンタフェ・オペラ『湖上の美人』ロドリゴ、サンフランシスコ・オペラ『チェネレントラ』『セビアの理髪師』、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーズなどに次々と出演。パレルモ・マッシモ劇場『椿姫』アルフレード、パリ・オペラ座『セビアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、メトロポリタン歌劇場『アルジェのイタリア人』リンドーロと重要なデビューが続いた。18/19シーズンにはウィーン国立劇場へエルネストでデビューしたほか、ローマ歌劇場『椿姫』『アンナ・ボレーナ』ペルシー卿、パレルモ・マッシモ劇場『イドメネオ』タイトルロールなどに出演。直近の出演に、ミラノ・スカラ座『愛の妙薬』ネモリーノ、ウィーン国立歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『セビアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場には20年『セビアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵でデビューし喝采を浴びた。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ダンディーニ: 上江隼人 (バリトン)**

Dandini : KAMIE Hayato

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、卒業時に松田トシ賞、アカンサス賞などを受賞。同大学院修了後、イタリアに留学。2006年ディマロ国際声楽コンクール「Val di sole」第1位。第23回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。ブッセートのパルマ・ヴェルディ・フェスティバルにて11年『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、15年『リゴレット』タイトルロールを演じ賞賛を浴びる。最近の主な出演に、NISSAY OPERA『セビリアの理髪師』フィガロ、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『椿姫』ジェルモン、東京二期会『道化師』トニオ、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『リゴレット』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、藤原歌劇団『椿姫』ジェルモン、『ランスへの旅』アルヴァーロ、『リゴレット』タイトルロール、札幌文化芸術劇場『アイダ』アモナズロなどがある。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』ルーシェ、『アイダ』アモナズロに出演している。藤原歌劇団団員。



**ドン・マニフィコ: アレッサンドロ・コルベッリ (バリトン)**

Don Magnifico : Alessandro CORBELLI

トリノ出身。22歳でデビュー以来、ベルカントとモーツァルトを中心に活躍し続けている名ソプラノ。ミラノ・スカラ座では1989年のデビュー以来、『コジ・ファン・トゥッテ』『フィガロの結婚』『チェネレントラ』などに出演しているほか、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、さらにバイエルン州立歌劇場、ケルン歌劇場、ジュネーヴ大劇場、テアトロ・レアル、ナポリ・サンカルロ歌劇場といった著名劇場やザルツブルク音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどの音楽祭に『チェネレントラ』『ドン・バスクワレ』『セビリアの理髪師』『アルジェのイタリア女』『ジャンニ・スキッキ』などで出演を重ねる。近年では、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ローマ歌劇場などで『チェネレントラ』ドン・マニフィコ、サンフランシスコ・オペラ、シカゴ・リリック・オペラ、グライントボーン音楽祭『セビリアの理髪師』バルトロ、トリノ王立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』、ザルツブルク音楽祭『アルジェのイタリア女』タッデオなどに出演している。新国立劇場初登場。



**アンジェリーナ: 脇園 彩 (メゾソプラノ)**

Angelina : WAKIZONO Aya

東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2013年、パルマ・ボーイト音楽院に留学。14年、ベアザロのロッシェニ・アカデミーに参加し『ランスへの旅』に出演。同年、ミラノ・スカラ座アカデミーに参加、『子供のためのチェネレントラ』アンジェリーナでスカラ座にデビュー。15年には英国ロイヤルオペラ『ファルスタッフ』メグに出演。『セビリアの理髪師』ロジーナ、『チェネレントラ』アンジェリーナ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラなど、ロッシェニとモーツァルトをレパートリーの中心に活躍している。ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、キャリア歌劇場、バーリ・ペトルツェリ劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバル『セビリアの理髪師』、マルティーナ・フランカ音楽祭のメルカダント『フランチェスカ・ダ・リミニ』パオロ、キャリア歌劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバル『試金石』クラリーチェ、ヴェローナ・フィラモニコ劇場『フィガロの結婚』、トリエステ・ヴェルディ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、『ナブッコ』フェネーナ、パレルモ・マッシモ劇場『イドメネオ』イダマンテなどに出演。スカラ座アカデミー『セビリアの理髪師』、ヴェローナ・フィラモニコ劇場『チェネレントラ』は際立った成功を収めた。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラでデビューし、20年『セビリアの理髪師』ロジーナ、21年『フィガロの結婚』ケルビーノに出演した。





主要キャスト・スタッフ プロフィール

**アリドーロ:ガブリエーレ・サゴーナ(バス)**

Alidoro : Gabriele SAGONA

イタリア出身。2009年、『ラ・ボエーム』コッリーネを獲得しペーザロのロッシーニ管弦楽団と共演してデビュー。その後すぐに輝かしいキャリアが開け、イタリア各地の歌劇場へ次々に出演。『ジャンニ・スキッキ』シモーネ、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『ルチア』ライモンド、『アンドレア・シェニエ』ルーシェ、『ファルスタッフ』ピストーラ、『チェネレントラ』アリドーロなどの役でトリノ王立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ベルガモ・ドニゼッティ劇場、カリアリ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ミラノ・スカラ座などに出演を重ねている。最近では、フィレンツェ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『セビリアの理髪師』、ローマ歌劇場『チェネレントラ』アリドーロ、『アイダ』エジプト国王、バレルモ・マッシモ劇場『ファルスタッフ』ピストーラ、ブッセート・ヴェルディ劇場、バルマ王立歌劇場『ルイザ・ミラー』ウルム、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿、ローマ歌劇場『リゴレット』モンテローネなどに出演している。新国立劇場初登場。



**クロリンダ:高橋薫子(ソプラノ)**

Clorinda : TAKAHASHI Nobuko

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。第23回ジロー・オペラ新人賞など受賞多数。1991～93年五島記念文化財団の奨学生としてミラノに留学。90年、藤原歌劇団『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナで本格的オペラ・デビュー。以来『ルチア』タイトルロール、『愛の妙薬』アディーナ、『ロメオとジュリエット』ジュリエット、『リゴレット』ジルダ、『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『タンクレーディ』アメナイーデ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『夢遊病の女』アミーナ、『仮面舞踏会』オスカルなど、次々と好評を博す。『魔弾の射手』エンヒェン、『トゥーランドット』リユーなどにも出演。新国立劇場では『魔笛』パパゲーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『沈黙』オハル、『鹿鳴館』頸子、鑑賞教室『愛の妙薬』アディーナなどに出演。国立音楽大学、洗足学園音楽大学講師。藤原歌劇団団員。



**ティーズベ:齊藤純子(ソプラノ)**

Tisbe : SAITO Junko

東京都出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで学ぶ。以後ボルドー大劇場、ナポリ・サンカルロ劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、南チロル音楽祭、チロル音楽祭、サンタンデール音楽祭など欧州各地で活躍している。レパートリーには『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『パルジファル』クンドリー、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『フィデリオ』レオノーレ、『トスカ』『アルツィーラ』『カルメン』タイトルロール、『イドメネオ』イーリアなどがあり、コンサートでもモーツァルト『ハ短調ミサ』、ハイドン『天地創造』、フォーレ、ドヴォルザーク、シューマン『レクイエム』、ベートーヴェン、ベルリオーズ『荘厳ミサ』、ロッシーニ、ベルゴレージ『スターバト・マーテル』などの宗教曲からシェーンベルク、ラヴェルの歌曲、さらにベリオ、エトヴェシュといった現代曲まで手掛けている。『アルツィーラ』『ニーベルングの指環』などCD、DVDも発売されている。新国立劇場では『フィレンツェの悲劇』ピアンカに出演した。



# ニュルンベルクのマイスタージンガー

## Die Meistersinger von Nürnberg

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2021年8/29(日)~8/31(火)

●一般発売日: 2021年9/4(土)

初演: 1868年6月21日/ミュンヘン宮廷劇場

台本・作曲: リヒャルト・ワーグナー

### プロダクションについて

新国立劇場と東京文化会館が展開する「オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World」の第2弾。祝祭感に満ちた大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』は、芸術における伝統と革新性の対立、寛大なる父性、年長の男性が若い娘に向ける純愛と深い諦念などが絶妙な音楽で描かれ、上演に大人数と長時間を要す作品ながらも、世界中の歌劇場で頻りに上演される人気演目です。人間味のあふれるドラマを通じ、伝統に対する敬意と新しいものへの意欲こそ芸術の永遠性を生む両輪である、というワーグナーの芸術讃歌が響きます。

演出はドイツ気鋭の演出家イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク。本公演はザルツブルク・イースター音楽祭とザクセン州立歌劇場、東京文化会館との国際共同制作で制作され、ザルツブルクで2019年4月13日に初演された後、ドレスデンで2020年1月~2月に上演されました。東京での上演は2020年6月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一旦中止となり、2021年の上演が決まりました。

指揮は大野和士芸術監督が務め、ザルツブルク、ドレスデン公演に続いてアドリアン・エレートが当たり役ベックメッサーに出演するほか、新国立劇場でもおなじみのワーグナー・バリトンのトーマス・ヨハネス・マイヤー、躍進中のトミスラフ・ムツェック、望月哲也、林正子と華やかなキャストが揃い、祝祭作を上演します。オーケストラピットには大野和士が音楽監督を務める東京都交響楽団が入ります。



ザルツブルク・イースター音楽祭公演より  
©OFS/Monika Rittershaus

### あらすじ

【第1幕】 ニュルンベルク。聖カタリーナ教会で騎士ヴァルターはエーファに一目惚れする。ヴァルターは翌日マイスタージンガーの歌合戦の勝利者がエーファを花嫁にできるとマグダレーネから聞き、自分も歌合戦に参加しようと徒弟のダーヴィットから歌の心構えを聞く。書記ベックメッサーとエーファの父ポグナーが現れるのでヴァルターは試験を受けたいと頼みこむ。明日の合戦について協議する親方達の前で、ヴァルターは自作の歌を披露する。歌の途中でやはりエーファとの結婚を目論むベックメッサーが非難を口に始め、靴屋のハンス・ザックスのみが、認めるべき箇所が多いと擁護する。失格となったヴァルターは意気消沈する。

【第2幕】 エーファは、騎士の模様に父親に訊ねるが、彼は言葉を濁す。ザックスがエーファを愛する心を歌っていると、当の彼女が現れてヴァルターの出来について聞きだそうとする。エーファのヴァルターへの愛が本物だと知ったザックスは、彼女のために動こうと決心。エーファを訪ねて来たヴァルターはことの次第を悔しげに語り、駆け落ちを迫る。ベックメッサーがエーファの部屋の下でセレナーデを歌おうとすると、ザックスが金槌の音を立てて邪魔をし、エーファの身代わりで窓辺に立つマグダレーネの姿に、彼女と恋仲のダーヴィットが気付いて大騒動に。騒ぎに乗じて家を出ようとしたエーファとヴァルターの前にザックスが飛び出して、騎士を家に引っ張り込み、娘は父親に引き渡す。

【第3幕】 翌朝。ザックスは自分の迷いから逃れられない。ヴァルターが夢に見た話を語るのので、ザックスはそれを歌にせよと励ます。ベックメッサーが訪ねて来て、ザックスが書き留めたヴァルターの歌を自分のものにしてしまう。エーファはヴァルターとともに、ザックスに感謝の気持ちを表す。歌合戦でベックメッサーが歌いだが上手く行かず、責任をザックスに被せる。ザックスは同じ歌をヴァルターに歌わせ、皆は彼の歌いぶりに感動する。勝利が決まったヴァルターにザックスが伝統の重みを説き、一同がザックスを讃える。

オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World

リヒャルト・ワーグナー

# ニュルンベルクのマイスタージンガー

Richard WAGNER / Die Meistersinger von Nürnberg

全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi
演出 Production	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク Jens-Daniel HERZOG
美術 Set Design	マティス・ナイトハルト Mathis NEIDHARDT
衣裳 Costume Design	シビル・ゲデケ Sibylle GÄDEKE
照明 Lighting Design	ファビオ・アントーチ Fabio ANTOCI
振付 Choreography	ラムセス・ジグル Ramses SIGL
演出補 Associate Director	ハイコ・ヘンツェル Heiko HENTSCHEL
ハンス・ザックス Hans Sachs	トーマス・ヨハネス・マイヤー Thomas Johannes MAYER
ファイト・ポグナー Veit Pagner	ビャーニ・トール・クリスティンソン Bjarni Thor KRISTINSSON
クンツ・フォーゲルゲザング Kunz Vogelgesang	村上公太 MURAKAMI Kota
コンラート・ナハティガル Konrad Nachtigall	与那城 敬 YONASHIRO Kei
ジクストウス・ベックメッサー Sixtus Beckmesser	アドリアン・エレート Adrian ERÖD
フリッツ・コートナー Fritz Kothner	青山 貴 AOYAMA Takashi
バルタザール・ツオルン Balthasar Zorn	菅野 敦 KANNO Atsushi
ウルリヒ・アイスリンガー Ulrich Eisslinger	鈴木 准 SUZUKI Jun
アウグスティン・モーザー Augustin Moser	伊藤達人 ITO Tatsundo
ヘルマン・オルテル Hermann Ortel	大沼 徹 ONUMA Toru
ハンス・シュヴァルツ Hans Schwarz	長谷川 顯 HASEGAWA Akira
ハンス・フォルツ Hans Foltz	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
ヴァルター・フォン・シュトルツィング Walther von Stolzing	トミスラフ・ムツェック Tomislav MUŽEK
ダーヴィット David	望月 哲也 MOCHIZUKI Tetsuya
エーファ Eva	林 正子 HAYASHI Masako
マグダレーネ Magdalene	山下牧子 YAMASHITA Makiko
夜警 Ein Nachtwächter	志村文彦 SHIMURA Fumihiko

合唱 ..... 新国立劇場合唱団、二期会合唱団  
 Chorus New National Theatre Chorus, Nikikai Chorus Group

管弦楽 ..... 東京都交響楽団  
 Orchestra Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

本公演は、新国立劇場、東京文化会館、ザルツブルク・イースター音楽祭、  
 ザクセン州立歌劇場の国際共同制作で上演されます。

2021年	11月	18日(木)16:00	21日(日)14:00
		24日(水)14:00	28日(日)14:00
	12月	1日(水)14:00	

【チケット料金】 S:33,000円 ・ A:27,500円 ・ B:19,800円 ・ C:13,200円 ・ D:6,600円

【会場】 オペラパレス

『ニュルンベルクのマイスタージンガー』他劇場での公演日程

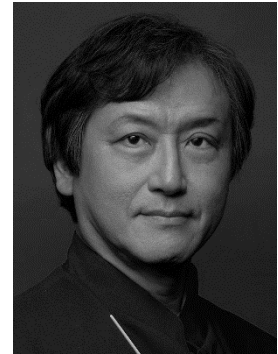
ザルツブルク・イースター音楽祭:	2019年4月13日(土)、22日(月)
ザクセン州立歌劇場:	2020年1月25日(土)、29日(水)
	2月 2日(日)、9日(日)、15日(土)
東京文化会館:	2021年8月 4日(水)、7日(土)

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』を指揮しており、今後は20/21シーズン『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、21/22シーズン『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』を指揮する予定。



演出:イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク

Production : Jens-Daniel HERZOG

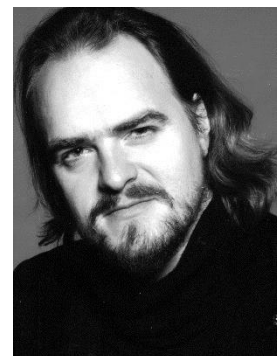
マンハイム国民劇場演劇監督を経て、2011年～18年ドルトムント歌劇場総監督。18年秋よりニュルンベルク歌劇場監督。マンハイムのほか、18年までチューリヒ劇場、ハンブルク・ターリア劇場、ウィーン・ブルク劇場などで多くの演劇作品を演出し、ベルリン芸術週間、ミュルハイム演劇祭などに招待されている。オペラでは、チューリヒ歌劇場『タンホイザー』『スパーードの女王』『オランダ』『遙かなる響き』（シュレーカー）、マンハイムで『コジ・ファン・トゥッテ』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、ニュルンベルク歌劇場『アイダ』『トスカ』、韓国国立劇場『ハムレット』、フランクフルト歌劇場『ローエングリン』、ザクセン州立歌劇場『ジュリオ・チェーザレ』、ドルトムント歌劇場『さまよえるオランダ人』『ドン・ジョヴァンニ』『トリスタンとイゾルデ』『リナルド』『オテロ』『アラベッラ』『ナブッコ』などを演出。最近では、ニュルンベルク歌劇場『戦争と平和』『アンナ・ニコル』（ターネジ作曲）『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・カルロ』などを演出している。新国立劇場初登場。



ハンス・ザックス:トーマス・ヨハネス・マイヤー(バトン)

Hans Sachs : Thomas Johannes MAYER

ドイツ生まれ。ケルン音楽大学で声楽をクルト・モルに師事。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。レパートリーは幅広く『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人、『ドン・ジョヴァンニ』『ヴォツェック』タイトルロール、『アラベッラ』マンドリカ、『サロメ』ヨハナーン、『魔弾の射手』カスパールなどを歌っている。最近では、ワーグナー作品を中心にバイエルン州立歌劇場「ニーベルングの指環」ヴォータン、バイロイト音楽祭『ローエングリン』テルラムント（2013年、14年、19年）、『パルジファル』アムフォルタス（18年）、ベルリン・ドイツ・オペラ『ワルキューレ』ヴォータン、『マクベス』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、オランダ国立オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータン及び『ジークフリート』さすらい人、ウィーン国立歌劇場『パルジファル』アムフォルタス、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、ベルリン州立歌劇場『サロメ』ヨハナーンなどに出演。新国立劇場では09年『ヴォツェック』タイトルロール、10年『アラベッラ』マンドリカ、15年『さまよえるオランダ人』タイトルロールに出演している。

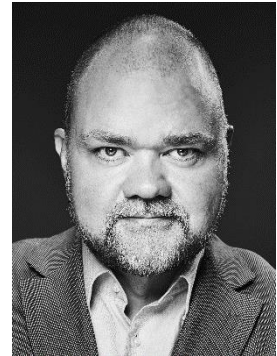


主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ファイト・ポグナー:ビャーニ・トール・クリスティンソン(バス)**

Veit Pogner : Bjarni Thor KRISTINSSON

アイスランド出身。レイキャビク、ウィーンで学んだ後、1997年から2000年までウィーン・フォルクスオーパー専属バス歌手として、『夏の夜の夢』ボトム、『ボリス・ゴドゥノフ』ピーメン、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ポグナーを含む多くのレパートリーを習得。ベルリン州立歌劇場に『皇帝と船大工』（ロルツィング）でデビューし、『後宮からの逃走』オスミン、『ばらの騎士』オックス男爵、『フィガロの結婚』バルトロに出演。ハンブルク州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、フランクフルト歌劇場、バーデン州立歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、パリ・オペラ座、リセウ大劇場、ローマ歌劇場、ヴェローナ、バレルモ、フィレンツェ、ナポリ、モンテカルロ歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場などで、『ばらの騎士』オックス男爵、『後宮からの逃走』オスミンのほか、グルネマンツ、ダーラント、ポグナー、ハインリッヒ国王、マルケ国王、ヴォータン/さすらい人、ファフナー、フンディング、ハーゲンといったワーグナー作品で活躍している。最近ではナポリ・サンカルロ歌劇場『後宮からの逃走』、オランダ国立オペラ『パルジファル』ティトゥレル、ケルン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、ライン・ドイツ・オペラ『ばらの騎士』、カッセル歌劇場「ニーベルングの指環」ヴォータンなどに出演。新国立劇場では07/08シーズン『魔弾の射手』カスパールに出演している。



**ジクストウス・ベックメッサー:アドリアン・エレート(バリトン)**

Sixtus Beckmesser : Adrian ERÖD

オーストリア出身。2001年グノー『ロメオとジュリエット』マキューシオでウィーン国立歌劇場にデビュー。ウィーン国立歌劇場の専属歌手として『セビリアの理髪師』フィガロ、マスネ『マノン』レスコー、『死の都』フランク、『ウェルテル』アルペール、『ヘンゼルとグレーテル』ペーターなどで出演を重ねる。フェニーチェ歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、パリ・オペラ座、ヒューストン・グランド・オペラなどにも出演。09年に『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサーでバイロイト音楽祭に初登場後、同役でチューリヒ歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、オランダ国立オペラなどに出演を重ねた。ウィーン国立歌劇場『ラインの黄金』ローグ役は国際的に高い関心を集め、ブレゲンツ音楽祭でのアンドレ・チャイコフスキー『ヴェニス商人』世界初演のシャイロック役も高く評価された。新国立劇場には11年『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、11年、15年、18年『こうもり』アイゼンシュタイン、14年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、16年『ウェルテル』アルペールに出演。本プロダクションのザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場公演にも出演している。



**フリッツ・コートナー:青山 貴(バリトン)**

Fritz Kothner : AOYAMA Takashi

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ第44期マスタークラス修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁、ローム ミュージック ファンデーションの奨学金を得てボローニャ、ミラノで研鑽を積む。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。第4回マグダ・オリヴェーロ国際コンクールファイナリスト。これまでに二期会『仮面舞踏会』レナート、『ナブッコ』タイトルロール、日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『魔笛』パパゲーノ、びわ湖ホール『さまよえるオランダ人』オランダ人、『ラインの黄金』ヴォータン、『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演。新国立劇場では『カルメン』モラレス、『黒船一夜明け』第二の浪人/漁師、『トゥーランドット』官吏、『ホフマン物語』シュレーミル、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピア、同『ラ・ボエーム』マルチェッロ、同『蝶々夫人』シャープレスなどに出演している。二期会会員



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ヴァルター・フォン・シュトルツィング:トミスラフ・ムツェック(テノール)**

Walther von Stolzing : Tomislav MUŽEK

ドイツのジーゲン生まれ（家族はクロアチア出身）。ウィーン音楽大学で学ぶ。ウィーン国立歌劇場、ブレーメン歌劇場の専属歌手を経て、2002年バイエルン州立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオで成功を収める。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ボローニャ歌劇場、パリ・オペラ座、バイロイト音楽祭、ルール・トリエンナーレなどで、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『愛の妙薬』ネモリーノ、『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『エウゲニ・オネーギン』、『サロメ』ナラポートなどに出演している。最近では、ザクセン州立歌劇場で『魔笛』タミーノ、『魔弾の射手』マックス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『フィデリオ』フロレスタン、ザクセン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、リヨン歌劇場、マルセイユ歌劇場での『さまよえるオランダ人』エリック、ベルリン・ドイツ・オペラ『ホフマン物語』タイトルロールなどがある。新国立劇場では、11/12シーズン『さまよえるオランダ人』エリックに出演している。



**ダーヴィット:望月哲也(テノール)**

David : MOCHIZUKI Tetsuya

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科に在籍し研鑽。第35回日伊声楽コンクール第3位。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。第70回日本音楽コンクール第2位。これまでに『椿姫』アルフレード、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』バジリオ、『アラベッラ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポート、『さまよえるオランダ人』舵手、『ピーター・グライズ』ホレース・アダマス、『タンホイザー』ヴァルター、『魔笛』タミーノ、『夜叉ヶ池』晃、『ヴォツェック』アンドレス、『アラベッラ』エレメル伯爵、『夕鶴』与ひょう、『マノン・レスコー』エドモンド、『ローエングリン』ブラバントの貴族Ⅰ、『アルマゲドンの夢』歌手/冷笑者などに出演。二期会会員。



**エーファ:林 正子(ソプラノ)**

Eva : HAYASHI Masako

東京藝術大学卒業。同大学院、二期会オペラスタジオ修了。ジュネーヴ音楽院ソリスト・ディプロマ取得。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。スイス・ロマン管弦楽団『ドイツ・レクイエム』に出演するほかオーストリアでの音楽祭、ナポリ・サンカルロ歌劇場でのヴェルディ『レクイエム』などヨーロッパを拠点に活動。国内では二期会『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、同『皇帝ティートの慈悲』ヴィテッリア等に出演。さらに、二期会『サロメ』タイトルロール、『ダナエの愛』ダナエ、『ナクソス島のアリアドネ』アリアドネ/プリマドンナ等立て続けに主演、2017年二期会『ばらの騎士』元帥夫人では表現力豊かな演唱で高い評価を得た。18年には同『ローエングリン』エルザ、19年『金閣寺』母等でも出演。ベートーヴェン「第九」、マーラー「千人の交響曲」等全国各地の主要オーケストラと共演し、コンサート・ソリストとしても活躍している。新国立劇場では『椿姫』フローラ、『魔笛』パミーナに出演している。ジュネーヴ在住。二期会会員。



# 蝶々夫人

Madama Butterfly

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2021年10/31(日)～11/2(火)

●一般発売日: 2021年11/6(土)

初演: 1904年2月17日/ミラノ・スカラ座

作曲: ジャコモ・プッチーニ

原作: デーヴィッド・ベラスコ

台本: ジュゼッペ・ジャコーザ/ルイーダ・イツリカ

## プロダクションについて

明治時代の長崎を舞台とし、名アリア「ある晴れた日に」など豊かなメロディで彩られる『蝶々夫人』は、世界中で観客の涙を誘っている人気作です。新国立劇場でも最も多く上演されているオペラで、開場以来、高校生のためのオペラ鑑賞教室を含め上演回数は110余回、18万人に及ぶ観客が鑑賞しています。アメリカ士官ピンカートンに一途な愛をささげる15歳の蝶々さんの哀しい運命を描いた悲劇が、栗山民也演出により、国と国の関係が落とす影を感じさせる、鋭く雄弁なドラマとして迫ります。舞台は蝶々さんのいる世界を表現するとともに、現代を映し出す風景なのです。

注目の蝶々夫人役は、新国立劇場オペラ研修所から世界へ羽ばたいたソプラノ中村恵理。ドラマティックな表現と繊細なテクニックで聴衆を魅了してきた彼女が、一段と成熟し、待望の蝶々夫人役でオペラパレスへ登場するとあって、世界のオペラファンの注目を集めそうです。ピンカートンにはルチアーノ・ガンチ、シャープレスにアンドレア・ボルギーニとヨーロッパで躍進中の歌手を招聘、指揮は下野竜也が『沈黙』以来待望の登場となります。



2019年公演より

## あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、現地妻を娶ろうというアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに新居を案内され、使用人を紹介される。結婚も家もいつでも契約破棄できると豪語するピンカートン。結婚を心待ちにしている花嫁を知るアメリカ総領事シャープレスは、ピンカートンの軽薄さを心配する。花嫁行列がやってきて、美しい花嫁、蝶々さんが現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳。裕福な武士の家の生まれだが父が切腹して亡くなり、今は芸者として生きている。結婚式が慎ましやかに行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人は甘い夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「駒鳥が巣を作る頃に帰る」との言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは再婚を勧めるが、蝶々さんは断る。というのも、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。帰国後ピンカートンがアメリカで本当の結婚をしたことを知るシャープレスは言葉もない。そしてついにピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花で満たして夫の到着を待つが、いつまでたってもやってこない。スズキの勧めで蝶々さんが奥の部屋で休んでいると、ピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケートが訪れる。スズキの対応で蝶々さんの思いを知ったピンカートンは、堪らず立ち去る。目覚めた蝶々さんはケートを見てすべてを悟り、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、自決。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。



ジャコモ・プッチーニ

# 蝶々夫人

Giacomo PUCCINI / Madama Butterfly

全2幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 .....	下野竜也
Conductor	SHIMONO Tatsuya
演出 .....	栗山民也
Production	KURIYAMA Tamiya
美術 .....	島 次郎
Set Design	SHIMA Jiro
衣裳 .....	前田文子
Costume Design	MAEDA Ayako
照明 .....	勝柴次朗
Lighting Design	KATSUSHIBA Jiro

蝶々夫人 .....	中村恵理
Madama Butterfly	NAKAMURA Eri
ピンカートン .....	ルチアーノ・ガンチ
Pinkerton	Luciano GANCI
シャープレス .....	アンドレア・ボルギーニ
Sharpless	Andrea BORGHINI
スズキ .....	但馬由香
Suzuki	TAJIMA Yuka
ゴロー .....	糸賀修平
Goro	ITOGA Shuhei
ボンゾ .....	島村武男
Bonzo	SHIMAMURA Takeo
ヤマドリ .....	吉川健一
Il Principe Yamadori	YOSHIKAWA Kenichi

ほか

合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2021年	12月	5日(日)14:00	7日(火)19:00
		10日(金)14:00	12日(日)14:00

【チケット料金】 S:22,000円 ・ A:16,500円 ・ B:11,000円 ・ C:6,600円 ・ D:3,300円

【会場】 オペラパレス

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 指揮: 下野竜也

Conductor : SHIMONO Tatsuya

2000年東京国際音楽コンクール優勝と齋藤秀雄賞受賞、01年ブザンソン国際青年指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴び、以降国際的な活動を展開。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、ミラノ・ヴェルディ響、ストラスブル・フィル、ボルドー管、ロワール管、ウィーン室内管など各国のオーケストラに客演を重ね、09年ローマ・サンタ・チェチーリア管、チェコ・フィル、10年シュトゥットガルト放送響、11年南西ドイツ・フィルにデビュー。読売日本交響楽団の初代正指揮者(06年～13年)を経て、同団首席客演指揮者(13年～17年)として、10年余りの間、意欲的な姿勢とプログラム構成で高い評価を獲得。11年より広島ウィンドオーケストラ音楽監督。14年4月から京都市交響楽団常任客演指揮者、17年常任首席客演指揮者。17年より広島交響楽団音楽総監督。霧島国際音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本をはじめ、数多くの音楽祭にも参加。オペラの分野でも注目の公演で指揮を務めている。出光音楽賞、渡邊曉雄音楽基金音楽賞、新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞。新国立劇場では12年、15年に『沈黙』を指揮している。



## 演出: 栗山民也

Production : KURIYAMA Tamiya

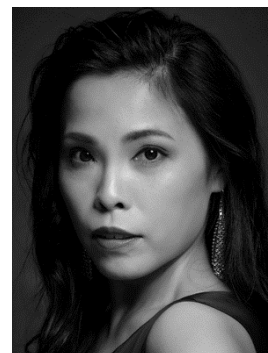
早稲田大学文学部演劇学科卒業。主な演出作品に『GHETTO/ゲッター』『きらめく星座』『海をゆく者』『組曲虐殺』『スリル・ミー』『ピアフ』『葦原検校』『アルカディア』『ディズグレイズド 恥辱』などがある。紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞千田是也賞、朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞。紫綬褒章受章。新国立劇場では、『今宵限りは・・・』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『櫻の園』『浮標』『涙の谷、銀河の丘』『夢の泪』『世阿弥』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・肝っ玉とその子どもたち』『夢の痴』『CLEANSKINS/きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』『雨』『マニラ瑞穂記』『あわれ彼女は娼婦』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。2000年から7シーズン新国立劇場演劇芸術監督を務め、05年から16年3月まで新国立劇場演劇研修所初代所長を務めた。



## 蝶々夫人: 中村恵理(ソプラノ)

Madama Butterfly : NAKAMURA Eri

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。2008年英国ロイヤルオペラにデビュー。翌年、同劇場の『カプレーティ家とモンテッキ家』にネトレブコの代役として出演し、一躍脚光を浴びる。そののち、カーディフ国際音楽コンクールにて、歌唱賞・オーケストラ賞の両部門で本選進出。10～16年はバイエルン州立歌劇場専属歌手となり、『フィガロの結婚』スザンナ役でデビュー後、ケント・ナガノ、キリル・ペトレンコ、大野和士の指揮のもと、『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』『ボリス・ゴドゥノフ』などに主要キャストとして出演。英国ロイヤルオペラに『フィガロの結婚』スザンナ、『ウェルテル』ソフィー、『トゥーランドット』リユーなどで客演に招かれるほか、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク州立劇場など客演多数。16年11月、『チェネレントラ』クロリンダでウィーン国立歌劇場にデビュー。19年には台中国家歌劇院の『神々の黄昏』ヴォークリンデに出演。12年度アリオ賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年第47回JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員教授、東京音楽大学非常勤講師。新国立劇場では『フィガロの結婚』バルバリーナ(03、05年)、スザンナ(07、17年)、06年『イドメネオ』イーリア、07年『ファルスタッフ』ナンネッタ、19年『トゥーランドット』リユーなど出演多数。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## ピンカートン:ルチアーノ・ガンチ(テノール)

Pinkerton : Luciano GANCI

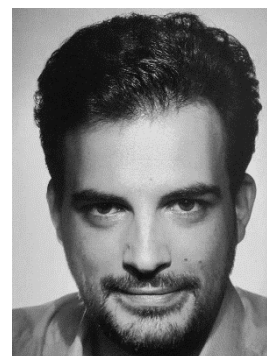
ローマ生まれ。2001年ドミンゴの「オペラリア」コンクール入賞、同年『ジャンニ・スキッキ』でデビュー。『蝶々夫人』ピンカートン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥとプッチーニの諸役を歌い、12年にザルツブルク州立劇場『椿姫』で国外デビュー。フィレンツェ歌劇場、サレルノ・ヴェルディ劇場『椿姫』、トリエステ・ヴェルディ歌劇場『友人フリッツ』、北京国家大劇院、ラヴェンナ音楽祭、ピアチェンツァ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』に出演。最近では、ミラノ・スカラ座『フランチェスカ・ダ・リミニ』マラテステイーノ、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『ルチア』エドガルド、トリエステ、バーリで『椿姫』アルフレード、ヴェローナ音楽祭、フィレンツェ歌劇場『カルメン』ドン・ホセ、サンカルロ歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン、クレモナ、ベルガモなどで『トスカ』カヴァラドッシ、モデナ、レッジョ＝エミーリアなどで『運命の力』ドン・アルヴァーロ、ニース・オペラ『アンドレア・シェニエ』タイトルロール、リセウ大劇場『アイダ』ラダメスなどに出演している。新国立劇場初登場。



## シャープレス:アンドレア・ボルギーニ(バリトン)

Sharpless : Andrea BORGHINI

シエナ出身。多くの声楽コンクールに入賞後、2012年に『セビリアの理髪師』フィガロでデビューし、サン・ガッガーノとサン・ジミニャーノのオペラフェスティバルで『カルミナ・ブラーナ』のソリストを務める。12年から18年までバイエルン州立歌劇場専属歌手となり、『ラ・ボエーム』ショナール、『リゴレット』マルッロ、『ホフマン物語』ヘルマン、『カルメル会修道女の会話』看守、『カルメン』モラレスなど多くの公演に出演。最近では、バイエルン州立歌劇場のボーイト『メフィストフェレ』ワグナー、トリエステ歌劇場『連隊の娘』シュルピス、カリアリ歌劇場『奴隷』イバール、エルル音楽祭『ギヨーム・テル』タイトルロール、ブッセート・ヴェルディ劇場『アイダ』アモナズロに出演。18年ラヴェンナ音楽祭では『リゴレット』タイトルロールに出演した。新国立劇場初登場。



## スズキ:但馬由香(メゾソプラノ)

Suzuki : TAJIMA Yuka

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第50回日伊声楽コンクール入選。第31回飯塚新人音楽コンクール第1位。2006年藤原歌劇団『ラ・チェネレントラ』ティーズベ役にてオペラ・デビュー。その後も『ラ・トラヴィアータ』アンニーナ、『ランスへの旅』モデステーナ、『リゴレット』小姓、『どろぼうかささぎ』ピッポ、『セビリアの理髪師』ベルタ、『ノルマ』クロテイルデ、『蝶々夫人』スズキ、『貞節の勝利』ロジーナ・カルッチャなどに出演、2018年『ラ・チェネレントラ』ではタイトルロールのアンジェリーナに出演し好評を博す。オペラのほか、『第九』『メサイア』『スターバト・マーテル』、モーツァルト『レクイエム』『戴冠ミサ』などの宗教曲のソリストやコンサートでも活躍している。新国立劇場には20年『夏の夜の夢』ハーミアでデビューした。藤原歌劇団団員。



# さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

●会員先行販売期間：2021年11/20(土)～11/22(月)

●一般発売日：2021年11/27(土)

初演：1843年1月2日／ドレスデン宮廷歌劇場

作曲・台本：リヒャルト・ワーグナー

## プロダクションについて

オランダ人船長が神を罵った罰で永遠に海をさまよい続けるという幽霊船伝説をもとに、ワーグナー自身が遭難しかかった体験を重ね合わせて書かれた、初期のオペラ。永遠に海をさまよう呪われたオランダ人船長を乙女ゼンタの愛が救う物語で、この「愛と自己犠牲による救済」は本作以降、ワーグナー作品に共通するテーマとなりました。勇壮なオーケストラ、美しいアリアや重唱、有名な「水夫の合唱」など、聴きどころにも富んだ作品です。マティアス・フォン・シュテークマン演出の明快なプロダクションは、2007年初演、12年、15年再演を経て、今回が4度目の上演となります。

指揮には名指揮者ジェームズ・コンロンが新国立劇場初登場、オランダ人には今日最高峰のワーグナー歌手エギルス・シリンスが出演、マルティーナ・ヴェルシェンバッハ、ラディスラフ・エルグルと注目の若手が登場します。



2015年公演より

## あらすじ

【第1幕】ノルウェー船が入江に停泊していると、赤い帆の不気味な船が現れる。それは、オランダ人船長の乗る幽霊船だ。悪魔に呪われたオランダ人船長は死ぬことを許されず、海をさまよっていた。そして7年に一度だけ上陸を許され、そのとき彼に永遠の貞節を誓う女性が現れれば救われるという。ノルウェー船の船長ダーラントはオランダ人の姿に気づき、幽霊とは知らず声をかける。2人は話すうち、ダーラントの娘ゼンタを妻にもらえるなら全財産をあげよう、とオランダ人が提案する。金に目がくらんだダーラントはその申し出を受け入れる。

【第2幕】壁にかかるオランダ人船長の肖像画になぜか心惹かれるゼンタ。村の女性たちはみな糸を紡いでいるが、ゼンタは絵に見入って幽霊船の伝説を語り、船長を救えるのは自分だけと確信する。ゼンタを愛する狩人エリックは、ゼンタがオランダ人と共に海に旅立つ夢ばかり見ているので、気が気でない。そんなとき、船が帰港。ダーラントは、オランダ人をゼンタに紹介する。ゼンタは、恋い焦がれたオランダ人が目の前にいることに恍惚とし、彼に貞節を誓う。オランダ人はついに救われるときが来たことを確信する。ダーラントも金銀財宝が手に入ると喜ぶ。

【第3幕】ノルウェー船員たちは、一緒に祝杯を上げようとオランダ船員に声をかけるが、反応がない。次第に恐ろしい声が響き渡り、ノルウェー船員たちは逃げ出す。一方エリックは、かつては自分に愛を誓ったのに、出会ったばかりのオランダ人船長と結婚を決めてしまったゼンタを責める。その2人のやりとりを物陰から見ていたオランダ人は、ゼンタを諦め、再び海へ戻ろうとする。しかしゼンタはオランダ人への愛を固く誓い、海へ身を投げる。するとオランダ船は沈没。光に包まれたオランダ人とゼンタは永遠の救いを得るのだった。

リヒャルト・ワーグナー

# さまよえるオランダ人

Richard WAGNER/Der fliegende Holländer

全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮..... Conductor	ジェームズ・コンロン James CONLON
演出..... Production	マティアス・フォン・シュテークマン Matthias von STEGMANN
美術..... Set Design	堀尾幸男 HORIO Yukio
衣裳..... Costume Design	ひびのこづえ HIBINO Kodue
照明..... Lighting Design	磯野 睦 ISONO Mutsumi
ダーラント..... Daland	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
ゼンタ..... Senta	マルティーナ・ヴェルシェンバッハ Martina WELSCHENBACH
エリック..... Erik	ラディスラフ・エルグル Ladislav ELGR
舵手..... Steuermann	鈴木 准 SUZUKI Jun
オランダ人..... Holländer	エギルス・シリンス Egils SILINS
	ほか
合唱..... Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽..... Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2022年	1月	26日(水)19:00	29日(土)14:00
	2月	2日(水)14:00	6日(日)14:00

【チケット料金】 S:22,000円 ・ A:16,500円 ・ B:11,000円 ・ C:6,600円 ・ D:3,300円

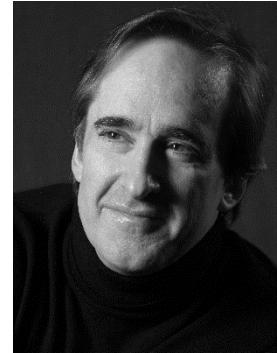
【会場】 オペラパレス

**主要キャスト・スタッフプロフィール**

**指揮: ジェームズ・コンロン**

Conductor : James CONLON

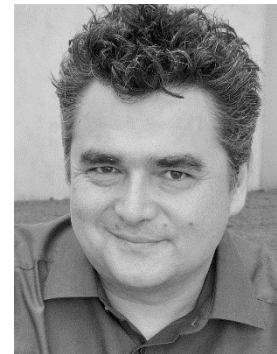
シンフォニー、オペラ、合唱曲で広く活躍し、今日最も評価される指揮者のひとり。シンシナティ5月音楽祭音楽監督、ロッテルダム・フィル音楽監督、ケルン市及びケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団、ケルン歌劇場音楽総監督、パリ・オペラ座首席指揮者、RAI交響楽団首席指揮者を歴任し、2006年からロサンゼルス・オペラ音楽監督。1974年のニューヨーク・フィルデビュー以来、欧米のあらゆるオーケストラを指揮。メトロポリタン歌劇場には76年にデビュー、以来270公演以上を指揮している。ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、マリインスキー劇場、英国ロイヤルオペラ、シカゴ・リリック・オペラ、フィレンツェ歌劇場など世界の著名劇場、音楽祭で活躍。ロサンゼルス・オペラでは、50演目以上、約400公演を指揮し、初の「ニーベルングの指環」サイクル上演や、第三帝国下で抑圧された20世紀オペラを上演するプロジェクト「Recovered Voices」、ブリテン生誕を祝う「Britten100/LA」などを手がけた。20/21シーズンは18世紀フランスの黒人作曲家ヨゼル・ボローニュ作曲の『The Anonymous Lover』のソーシャル・ディスタンシング上演のライブ中継を行った。21年には『ドン・ジョヴァンニ』と『アイダ』を指揮する予定。ナチ時代の作曲家の作品の復活上演をはじめ、人権擁護活動でも多くの国際的な賞を受賞している。その社会的活動や文筆、テレビ出演や講演活動によって、米国で最も広く知られる文化の伝道者でもある。新国立劇場初登場。



**演出: マティアス・フォン・シュテークマン**

Production : Matthias von STEGMANN

ミュンヘン生まれ。テレビや映画の翻訳、台本、演出家、俳優として活動を開始。1991年よりバイロイト音楽祭に参加、以来第一演出助手を務める。2002年英国ロイヤルオペラ『ヴォツェック』、04年「ニーベルングの指環」（共にK.ウォーナー演出）でも演出補として参加するなど、多くの演出家の信頼を得ている。03年メトロポリタン歌劇場『後宮からの逃走』では太守セリムで出演。自ら音楽劇の執筆、演出も手掛けている。新国立劇場では開場記念公演『ローエングリン』でW.ワーグナーの演出助手を務めて以来、『アラベッラ』『魔笛』『サロメ』『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『ニーベルングの指環』に参加。07年『さまよえるオランダ人』で本格的オペラ演出デビューを果たし、12年、15年に再演。08年は『魔弾の射手』を演出。また、04年こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』の台本・演出を担当、大絶賛を博しウィーン国立歌劇場特設劇場、チューリッヒ歌劇場でも上演された。近年では12年ミンデンオペラ劇場『トリスタンとイゾルデ』、13年バイロイト音楽祭『リエンツィ』の演出を手掛けている。



**ダーラント: 妻屋秀和(バス)**

Daland : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉢蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーフルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。18/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムール、20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『ばらの騎士』警部、『ペレアスとメリザンド』アルケルにも出演予定。二期会会員。



## 主要キャスト・スタッフプロフィール

### ゼンタ:マルティーナ・ヴェルシェンバッハ(ソプラ)

Senta : Martina WELSCHENBACH

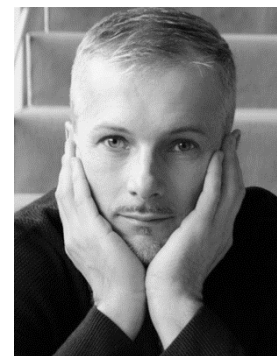
シュトゥットガルト出身。生地の音楽院及びギルドホール音楽院、英国王立音楽院で学ぶ。在学中にシュトゥットガルト州立歌劇場、ザグレブ国立劇場に出演。2005年、チューリヒ歌劇場オペラスタジオのメンバーとなる。08/09シーズンにはベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手となり、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『仮面舞踏会』オスカル、『魔弾の射手』エンヒェン、『ナクソス島のアリアドネ』エコー、『チェネレントラ』クロリンダ、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナ、『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴォークリンデ、『イエヌーフア』カロールカ、『トゥーランドット』リューなどに出演。12/13シーズンに『ラインの黄金』フライア、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファにデビューして以来、ドイツ・オペラで成功を収める。パリ・オペラ座のヒンデミット『画家マティス』、ウィーン放送交響楽団『ヴァレンシュタイン』（ヴァインベルガー作曲）テクラ、北ドイツ交響楽団『エウゲニ・オネーギン』タチアーナ、ベルリン・フィルハーモニー交響楽団『選ばれし乙女』など出演しており、ルツェルン、シュトゥットガルト、デュッセルドルフ、ライプツィヒ、ゲラなどに招かれている。新国立劇場初登場。



### エリック:ラディスラフ・エルグル(テノール)

Erik : Ladislav ELGR

チェコ出身。2005年にニュルンベルク歌劇場、06-08年にハンブルク歌劇場のオペラスタジオに在籍後、ウィーン・フォルクスオーパー専属歌手となる。ジュネーヴ大劇場、フェニーチェ歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場などに出演した後、パリ・オペラ座に『マクロプロス事件』イエネクで、ベルリン・ドイツ・オペラに『イエヌーフア』シュテヴァで衝撃的にデビュー。フランダース・オペラ『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、ライプツィヒ歌劇場『さまよえるオランダ人』エリック、ベルリン・ドイツ・オペラ『マクロプロス事件』アルベルト、『エドワード』（世界初演）ガヴェストンなど出演。声楽、演技両面で評価され、ザンクトガレン歌劇場『カルメン』ドン・ホセ、ザクセン州立歌劇場『ダフネ』ロイキッポス、ベルリン・ドイツ・オペラ『死者の家から』スクラトフ、トゥーロン歌劇場『カーチャ・カバノヴァ』ボリス、ケルン歌劇場『アラベッラ』マッテオ、エッセン・アールト劇場『ルサルカ』王子はいずれも新演出に出演した。最近の主な出演には、パリ・オペラ座、リヨン歌劇場、英国ロイヤルオペラ『死者の家から』スクラトフ、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、フランダース・オペラ『賭博者』アレクセイがある。今後の予定に、ベルリン州立歌劇場『イエヌーフア』シュテヴァ、ベルゲン音楽祭、ジュネーヴ大劇場『ルサルカ』王子がある。新国立劇場初登場。



### オランダ人:エギルス・シリンス(バス・バリトン)

Holländer : Egils SILINS

ラトヴィア出身。ラトヴィア国立歌劇場でデビュー後、ウィーン国立歌劇場にデビュー。ブレゲンツ音楽祭『デーモン』タイトルロールで称賛され、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、グラインドボーン音楽祭などの著名音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに定期的に登場。「ニーベルングの指環」ヴォータン、さすらい人、『パルジファル』クリングゾル、アムフォルタス、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナル、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアなどレパートリーは70に及ぶ。2019/20シーズンはウィーン国立歌劇場『ローエングリン』テルラムント、英国ロイヤルオペラ『フィデリオ』ドン・フェルナンド、ベルリン・ドイツ・オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータンに出演。今後の予定にビルバオ・オペラ『サムソンとデリラ』大祭司などがある。新国立劇場では14年『パルジファル』アムフォルタスに出演した。



# 愛の妙薬

L'elisir d'amore

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

●会員先行販売期間：2021年12/19(日)~12/21(火)

●一般発売日：2021年12/26(日)

初演：1832年5月12日 テアトロ・カノッピアーナ

作曲：ガエターノ・ドニゼッティ

台本：フェリーチェ・ロマーニ

## プロダクションについて

ベルカント・オペラの代表作として知られるドニゼッティの傑作『愛の妙薬』。愛の媚薬で恋に落ちる『トリスタンとイゾルデ』の話聞いた青年ネモリーノが、村一番の美人アディーナに恋し奮闘する物語です。恋心を思うように伝えられない主人公ネモリーノの人物像やアディーナの心が揺れ動くさまが、音楽の力で素直に伝わってきます。最大の聴きどころであるネモリーノの名アリア「人知れぬ涙」、敵役の軍曹ベルコーレの明るい持ち味、ドゥルカマーラの軽妙なキャラクターなどドニゼッティの音楽の冴えを実感できる箇所が随所であり、合唱のきびきびした歌声も舞台を盛り上げます。チャーザレ・リエヴィ演出（2009年初演）は、9メートルもある本や文字、実物大の小型飛行機などを舞台上に登場させ、遊び心と的確な心理描写で好評を博したプロダクションです。

注目のネモリーノには、19年『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオで新国立劇場にデビューし、甘く透明感に満ちた声の繊細なコントロールで強い印象を与えたベルカント・テノールのファン・フランシスコ・ガテルが登場。アディーナは『アルマゲドンの夢』ベラで声も演技も絶賛されたジェシカ・アゾーディ。ドゥルカマーラを歌うのは日本でも大人気のロベルト・デ・カンディアです。



2017年公演より

## あらすじ

【第1幕】村人たちが集い、農場主の娘アディーナが本を読む。ネモリーノは彼女に恋している。軍曹ベルコーレが兵隊と共に登場、アディーナに目を留める。ネモリーノも彼女を呼び止めるがつかなくされる。偽医者ドゥルカマーラがネモリーノに「愛の妙薬」と偽ってワインを売りつけ、一日後に効き目が出ると騙す。軍曹に出発命令が届き、アディーナに「今日中に結婚しよう」と告げる。それでは妙薬が効かないと焦ったネモリーノはもう一日待ってくれと頼んで笑い者になる。アディーナは宴に皆を招き、ネモリーノはひとり偽医者の助けを求めて叫ぶ。

【第2幕】アディーナと軍曹の結婚祝いの席。アディーナは姿の見えないネモリーノを気にする。ネモリーノは妙薬をまた買う金を求めて、ベルコーレに入隊を志願する。娘たちが「ネモリーノが親戚の莫大な遺産を相続した」と噂する。やってきたネモリーノを娘たちが急に持ち上げるので、彼は薬の効き目を実感する。アディーナはネモリーノが妙薬のために入隊を志願したと聞きほろりとする。彼女の涙を目にしたネモリーノは、名アリア〈人知れぬ涙〉で彼女の心のうちを悟ったと歌う。アディーナは、ベルコーレから買い戻した入隊契約書をネモリーノに差し出す。彼は「愛してもらえないのなら兵隊になって死にたい」と叫ぶ。二人は本心を告げあう。ベルコーレが登場、潔くアディーナを諦める。村を去るドゥルカマーラを、一同がにぎやかに見送る。



ガエターノ・ドニゼッティ

# 愛の妙薬

Gaetano DONIZETTI / L'elisir d'amore

全2幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 .....	フランチェスコ・ランツイロッタ
Conductor	Francesco LANZILLOTTA
演出 .....	チェーザレ・リエヴィ
Production	Cesare LIEVI
美術 .....	ルイジ・ペーレゴ
Set Design	Luigi PEREGO
衣裳 .....	マリーナ・ルクサルド
Costume Design	Marina LUXARDO
照明 .....	立田雄士
Lighting Design	TATSUTA Yuji

アディーナ .....	ジェシカ・アゾーディ
Adina	Jessica ASZODI
ネモリーノ .....	ファン・フランシスコ・ガテル
Nemorino	Juan Francisco GATELL
ベルコーレ .....	ブルーノ・タッディア
Belcore	Bruno TADDIA
ドゥルカマーラ .....	ロベルト・デ・カンディア
Dulcamara	Roberto DE CANDIA

ほか

合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2022年	2月	7日(月)19:00	9日(水)14:00
		11日(金・祝)14:00	13日(日)14:00

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

【会場】 オペラパレス

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 指揮:フランチェスコ・ランツィロッタ

Conductor : Francesco LANZILLOTTA

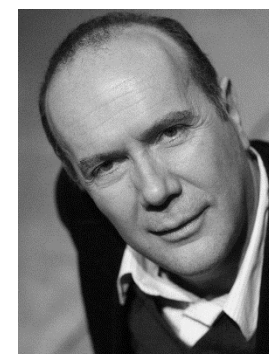
イタリア出身。近年、イタリアの著名劇場に定期的に客演。RAI交響楽団、スイス・イタリア管弦楽団などの重要オーケストラにも定期的に招かれ、トスカニーニ・フィルでは音楽監督を4年間務める。20世紀音楽や現代音楽、現代オペラにも注力し、ナンシー歌劇場、フェニーチェ歌劇場でバッティステッリ『Il medico dei pazzi』世界初演、フェニーチェ歌劇場『人間の声』を指揮。マチェラータ音楽祭では2015年に『リゴレット』を指揮し、17年に音楽監督に就任。16/17シーズンには東京フィルハーモニー交響楽団、モンペリエ歌劇場、エッセン・アールト劇場、ロッシニ・オペラ・フェスティバルにデビュー。最近では、チューリヒ歌劇場『マクベス』、ナンシー歌劇場『7 minutes』（バッティステッリ作曲、世界初演）、パレルモ・マッシモ劇場『ラ・ファヴォリータ』、フェニーチェ歌劇場『椿姫』、ボリショイ劇場『フィガロの結婚』、ザクセン州立歌劇場『ランスへの旅』、北京・国家大劇院『フィガロの結婚』、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『ランスへの旅』などを指揮している。新国立劇場初登場。



## 演出:チェーザレ・リエヴィ

Production : Cesare LIEVI

イタリアのプレシア・ガルニャーノ生まれ。イタリア、ドイツ、オーストリアで1980年代に舞台演出家として成功を収める。オペラ分野では90年代よりミラノ・スカラ座でシーズン・オープニングの『パルジファル』、ウィーン国立歌劇場『ジェズアルド』、メトロポリタン歌劇場『チェネレントラ』、ベルリン州立歌劇場『マノン』、モデナ市立劇場『ピーター・グライムズ』、カタリニャ・ベッリーニ劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』などを手がけている。チューリヒ歌劇場には継続的に招かれ、『妖精ヴィッリ』『道化師』『シチリアの晩鐘』『ジュリオ・チェーザレ』『アルジェのイタリア女』など数多くの作品を発表している。最近ではサンパウロ歌劇場『マノン・レスコー』、クラーゲンフルト歌劇場『カルメン』、モンテカルロ歌劇場『ワリー』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『ドン・カルロ』などの新演出を手がけている。



## アディーナ:ジェシカ・アゾーディ(ソプラノ)

Adina : Jessica ASZODI

オーストラリア出身。ジャンルやレーベルを超え、埋もれた作品の復活から新作初演、スタンダードなオペラから多ジャンルのコラボレーションまで幅広く活動。メルボルン響、シドニー響、アデレード響、シドニー・ピンチガッド・オペラ、チロル響、ヴィクトリア・オペラ、シドニー・チェンバー・オペラ、シカゴ響などに、シュトックハウゼンの「光」から『木曜日』イヴ、サティ『ソクラテス』タイトルロール、モーツァルト『羊飼いの王様』アミンタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ジュリオ・チェーザレ』セスト、ウォルトンの『熊』ポポーヴァ、カーター『What Next?』ローズ、『ナクソス島のアリアドネ』エコーなどで出演。ボンのベーターヴェン音楽祭、ビビッド・シドニー、ベンディゴ国際音楽祭、メルボルン・フェスティバル、アデレード・フェスティバル、オールドバラ音楽祭、タングルウッド音楽祭などにも出演。オーストラリアのリゾナント・ボディ・フェスティバルの共同ディレクター、ベンディゴ国際音楽祭アーティストティック・アソシエイト。2017年にはシカゴのハイ・コンセプト・ラボのアーティスト・イン・レジデンスに参加。最近ではシドニー・オペラハウスでリザ・リングがアゾーディのために作曲した『Atlas of the Sky』、ウィーン・フォルクスオーパーのミュージカル『Brigadoon』などに出演。新国立劇場には20年『アルマゲドンの夢』ベラで初登場した。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## ネモリーノ:フアン・フランシスコ・ガテル(テノール)

Nemorino : Juan Francisco GATELL

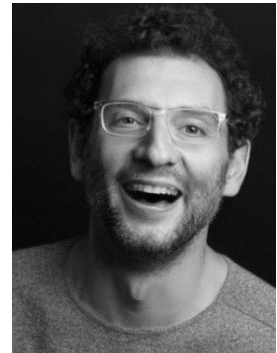
アルゼンチン出身。明るく魅力的、エレガントな声と劇的な表現で躍進中のリリックテノールのライジングスター。2004年カルーソーコンクール、06年AsLicoコンペティションなど数々のコンクールで優勝。ミラノ・スカラ座、フェニーチェ歌劇場、トリノ王立歌劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、シャンゼリゼ劇場、ウィーン国立歌劇場、リセウ大劇場、テアトロ・レアル、パリ・オペラ座、ロサンゼルス・オペラ、ザルツブルク音楽祭、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなど世界中の歌劇場やコンサートに『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『ドン・パスクワーレ』エルネスト、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『愛の妙薬』ネモリーノなどで出演。特にフェニーチェ歌劇場への『羊飼いの王様』アレックスandro大王と『放蕩者のなりゆき』トム・レイクウェルでのデビューは大評判を起し、スカラ座『ルチア』アルトゥーロ、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ロサンゼルス・オペラ『ファルスタッフ』フェントン、ワシントン・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』、ザルツブルク音楽祭『ロメオとジュリエット』ティボルトなどの大成功は特筆される。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオでデビューした。



## ベルコーレ:ブルーノ・タッディア(バリトン)

Belcore : Bruno TADDIA

イタリア出身。ヴァイオリンを学んだ後、声楽、バロック・ヴァイオリン、作曲を学ぶ。バロック、古典オペラから現代曲まで幅広いレパートリーで活躍。2001年のロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』アルヴァーロでデビューした後、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、シャトレ座、シャンゼリゼ劇場、アン・デア・ウィーン劇場、リセウ大劇場など世界各地の歌劇場で『セビリアの理髪師』フィガロ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『オーリードのイフィジェニー』オレステ、『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどへ出演。最近の出演ではコロラド・オペラ『セビリアの理髪師』フィガロ、ブッチーニ・フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』タイトルロールが特筆される。新国立劇場初登場。



## ドゥルカマーラ:ロベルト・デ・カンディア(バリトン)

Dulcamara : Roberto DE CANDIA

イタリア出身。ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ・コミック、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ローマ歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場などの一流歌劇場や音楽祭に登場している。ロッシーニを得意とし、多くの役でロッシーニ・オペラ・フェスティバルに出演しているほか、『セビリアの理髪師』フィガロなどで世界中で活躍。近年はレパートリーを広げ、『ファルスタッフ』タイトルロール、『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、『椿姫』ジェルモン、『仮面舞踏会』レナート、『愛の妙薬』ドゥルカマーラなどに出演している。最近の出演に、ナポリ・サンカルロ歌劇場『魔笛』パパゲーノ（ロールデビュー）、『椿姫』ジェルモン、テアトロ・レアル『ファルスタッフ』、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワーレ』タイトルロール、ノルウェー国立オペラ『愛の妙薬』ドゥルカマーラなどがある。来日も多く日本のファンも多い。新国立劇場には1999年『マノン・レスコー』レスコー、2002年『セビリアの理髪師』フィガロ、09年『チェネレントラ』ダンディーニ、18年『ファルスタッフ』タイトルロールに続いての登場。



# 椿姫

La Traviata

オペラバレス | 5回公演 | 全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

●会員先行販売期間：2022年1/23(日)～1/25(火)

●一般発売日：2022年1/30(日)

初演：1853年3月6日／フェニーチェ歌劇場(ヴェネツィア)

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ

原作：アレクサンドル・デュマ・フィス

台本：フランチェスコ・マリア・ピアヴェ

## プロダクションについて

パリ社交界を舞台に、高級娼婦ヴィオレッタの愛と哀しい運命を描いた人気オペラ。原作はアレクサンドル・デュマ・フィスが高級娼婦マリー・デュプレシをモデルに書いた戯曲『椿の花を持つ女』で、ヴェルディは同時代に生きる女性をヒロインに据え、感情表現に重きを置いた斬新なオペラを誕生させました。ガラ・コンサートの定番楽曲としてお馴染みの「乾杯の歌」をはじめ、悲劇を予兆する前奏曲、ヴィオレッタの超絶技巧のアリア「ああ、そは彼の人か〜花から花へ」、ジェルモン「プロヴァンスの海と陸」など有名な曲が続きます。演出のヴァンサン・ブザールは色彩にこだわる洗練された舞台に定評があり、この『椿姫』（2015年初演）ではその美的センスを発揮すると同時に、鏡を効果的に用いて心象風景を描出し、男性社会で誇り高く生きる女性の姿を印象付けました。

注目のヴィオレッタには、欧米の著名劇場で続々と主役に出演しているアニタ・ハルティヒ、アルフレードには同役をローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、フィレンツェ歌劇場などで歌っているテノールの新星マッテオ・デソーレと、フレッシュなキャストが登場します。



2019年公演より

## あらすじ

【第1幕】パリ社交界の華である高級娼婦ヴィオレッタは、肺の病で先が長くないことを悟っている。今夜も自宅のサロンでパーティを開催。ガストン子爵が、青年アルフレードを連れてくる。彼は「1年前にあなたを見て以来ずっと恋している」と真摯にヴィオレッタに告白するのだった。ひとりになったヴィオレッタは、今まで経験したことのない、心からの愛の告白に心ときめくが、たかが愛のために享樂的な人生は捨てられない、と我に返る。

【第2幕】アルフレードとの愛を選んだヴィオレッタは、パリ郊外の田舎で彼と静かに暮らしているが、生活費のため全財産を競売にかけようとしていた。それを知ったアルフレードは競売を止めさせようとパリへ向かう。すれ違いでヴィオレッタが帰宅すると、家にはアルフレードの父ジェルモンが。アルフレードの妹の縁談を成立させるため、息子と別れるようジェルモンは頼む。今は彼との愛だけが生きる希望であるヴィオレッタは、はじめ拒むが承諾し、別れの手紙を書いて家を出る。事情を知らないアルフレードは手紙に愕然とし、父が「一緒に故郷に戻ろう」と慰めても聴く耳をもたない。アルフレードは怒りが収まらず、夜会の大勢の客の前でヴィオレッタを罵倒する。彼女は絶望に打ちのめされる。

【第3幕】1ヵ月後。死の床に伏しているヴィオレッタ。そこに、父ジェルモンからすべてを聞いたアルフレードが来て、許しを乞い、パリを離れて一緒に暮らそうと語る。ヴィオレッタは愛する人に囲まれ息絶える。

ジュゼッペ・ヴェルディ

# 椿姫

Giuseppe VERDI / La Traviata

全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 .....	アンドリー・ユルケヴィチ
Conductor	Andriy YURKEVYCH
演出・衣裳 .....	ヴァンサン・ブサール
Production and Costume Design	Vincent BOUSSARD
美術 .....	ヴァンサン・ルメール
Set Design	Vincent LEMAIRE
照明 .....	グイド・レヴィ
Lighting Design	Guido LEVI
ムーヴメント・ディレクター .....	ヘルゲ・レトーニャ
Movement Director	Helge LETONJA

ヴィオレッタ .....	アニタ・ハルティヒ
Violetta Valéry	Anita HARTIG
アルフレード .....	マッテオ・デソーレ
Alfredo Germont	Matteo DESOLE
ジェルモン .....	ゲジム・ミシュケタ
Giorgio Germont	Gezim MYSHKETA
ガストン子爵 .....	金山京介
Visconte Gastone	KANAYAMA Kyosuke

ほか

合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2022年	3月	10日(木) 19:00	13日(日) 14:00
		16日(水) 14:00	19日(土) 14:00
		21日(月・祝) 14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

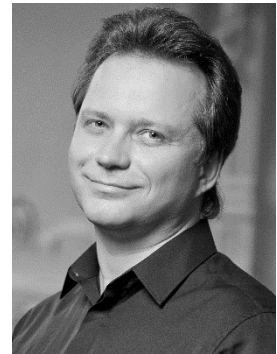
【会場】 オペラパレス

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: **アンドリー・ユルケヴィチ**

Conductor: Andriy YURKEVYCH

ウクライナ生まれ。1999年にウクライナのリヴィウ音楽大学を卒業し、ポーランド国立歌劇場でヤツェク・カスプシク、イタリア・シエナの音楽院でジェルメッティ、ペーザロでアルベルト・ゼッダのもとで学ぶ。96年からリヴィウ国立オペラ常任指揮者となり、『アイダ』『ナブッコ』『イル・トロヴァトーレ』『椿姫』『オテロ』『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』やロシア・オペラなどを指揮する。オデッサ・オペラ・バレエ総指揮者、ポーランド国立歌劇場音楽監督、ワルシャワ大劇場音楽監督を歴任、現在、モルドバ国立オペラ・バレエ首席指揮者。ローマ歌劇場には2005年『白鳥の湖』『眠れる森の美女』で登場後、10/11シーズン開幕公演『ファルスタッフ』も指揮した。サンチャゴ市立劇場、サンフランシスコ・オペラ『連隊の娘』、バイエルン州立歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場『セビリアの理髪師』、モンテカルロ歌劇場『ランスへの旅』、モネ劇場『運命の力』『ボリス・ゴドゥノフ』、ザンクトガレン歌劇場『スペードの女王』、ギリシャ国立歌劇場『清教徒』、ナポリ・サンカルロ歌劇場『マリア・ストゥアルダ』、ワルシャワ大劇場、バイエルン州立歌劇場、モルドバ国立オペラ『エウゲニ・オネーギン』、ウィーン国立歌劇場、チューリヒ歌劇場、テアトロ・レアル『ロベルト・デヴリュエー』、リセウ大劇場『アンナ・ボレーナ』など多くのオペラを指揮している。新国立劇場では19/20シーズン『エウゲニ・オネーギン』を指揮した。

演出・衣装: **ヴァンサン・ブサーール**

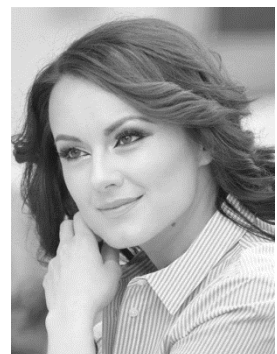
Production and Costume Design: Vincent BOUSSARD

1999年コメディ・フランセーズにて演出家デビュー。これまでに、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、スウェーデン王立歌劇場、モネ劇場、サンフランシスコ・オペラ、エクサンプロヴァンス音楽祭、インスブルック音楽祭など各地の歌劇場や音楽祭に登場。演出作品には、パーセル『ディドとエネアス』、ヘンデル『テオドーラ』、シャルパンティエ『オルフェウスの冥府下り』、カヴァッリ『エリオガバロ』などのバロック・オペラ、メノッティ『マリア・ゴロヴィン』、ブノワ・メルニエ『春の目覚め』などの現代オペラのほか、『偽の女庭師』『カブレーティ家とモンテッキ家』『カルメン』『蝶々夫人』『サロメ』『アドリアーナ・ルクヴルール』『キャンディード』など多岐に渡る。最近では、リトアニア国立オペラ『マノン』、ストラスブルール・ラン歌劇場で『椿姫』、ザルツブルグ復活祭音楽祭『オテロ』、リセウ大劇場『カブレーティ家とモンテッキ家』、ザンクトガレン歌劇場『ローエン格林』などを演出。幾つかのプロダクションはテレビ放映やDVD化され、『春の目覚め』はディアパソン・ドール賞を受賞している。

ヴィオレッタ: **アニタ・ハルティヒ(ソプラノ)**

Violetta Valéry : Anita HARTIG

ルーマニア出身。2006年ルーマニア国立歌劇場『ラ・ボエーム』ミミでデビュー。09年～14年はウィーン国立歌劇場専属歌手として、『魔笛』パミーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスビーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『フィデリオ』マルツェッリーネ、『カルメン』ミカエラ、『フィガロの結婚』スザンナなどに出演。13年に英国ロイヤルオペラに『ラ・ボエーム』ミミでデビュー後、翌年、同役でメトロポリタン歌劇場とパリ・オペラ座にデビュー。続いてリセウ大劇場に『椿姫』ヴィオレッタでデビュー。バイエルン州立歌劇場、モネ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座などに招かれる。近年ではメトロポリタン歌劇場『椿姫』、ウィーン国立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ『カルメン』ミカエラ、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』スザンナ、メトロポリタン歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、ウィーン国立歌劇場、テアトロ・レアル、ベルリン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場『トゥーランドット』リユーなどに出演。今シーズンはパリ・オペラ座『ファウスト』マルグリート、リセウ大劇場『ラ・ボエーム』ミミに出演予定。新国立劇場初登場。

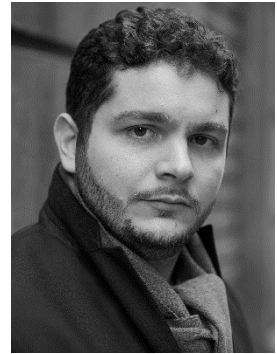


## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

**アルフレード: マッテオ・デソーレ (テノール)**

Alfredo : Matteo DESOLE

サッサリ出身。モデナで学び、2015年にボローニャ歌劇場『マクベス』マルコムでデビュー後、ヨーロッパ各地の劇場に次々にデビュー。最近では、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、フィレンツェ歌劇場『椿姫』アルフレード、カリアリ歌劇場『ルチア』エドガルド、エルルで『ラ・ボエーム』ロドルフォ、フィレンツェ歌劇場『つばめ』ルッジェーロ、モデナ、フェッラーラ、レッジョ・エミアで『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、ロンドン・ホランドパーク・オペラ『椿姫』、クラーゲンフルト歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、ミラノ・スカラ座『フランチェスカ・ダ・リミニ』『群盗』、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、パリー・ペトルツェッリ劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演している。新国立劇場初登場。

**ジェルモン: ゲジム・ミシュケタ (バリトン)**

Giorgio Germont : Gezim MYSHKETA

アルバニア出身。パルマで学び、2006年のAsLicCoコンクールで優勝。マシー歌劇場ツアー公演『ドン・ジョヴァンニ』レボレッロでデビュー。マルセイユ歌劇場『ルチア』エンリーコ、ヴェローナ・フィラモニコ劇場『マリア・ストゥアルダ』グリエルモ・セシル卿、AsLiCo公演『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ベルリン・ドイツ・オペラ『カルメン』エスカミーリョ、ハンブルク歌劇場『椿姫』ジェルモンで成功し賞賛される。シュトゥットガルト州立歌劇場には13年に『ファルスタッフ』フォードでデビューした後、『椿姫』、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『カルメン』、『ファウスト』ヴァランタン、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『清教徒』リッカルドに出演。ライブツィヒ歌劇場では16年『椿姫』ジェルモンに出演後、『蝶々夫人』『ルチア』に出演。最近ではナポリ・サンカルロ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、ボローニャ歌劇場、トリノ王立歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、シュトゥットガルト州立歌劇場『清教徒』、ライブツィヒ歌劇場『椿姫』『ラ・ボエーム』『カルメン』、チューリヒ歌劇場『運命の力』、ザクセン州立歌劇場『カルメン』、カリアリ歌劇場『マクベス』タイトルロール、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』フォードに出演。今後の予定にマルセイユ歌劇場『ルイザ・ミラー』ミラー、トゥールーズ・キャピトル劇場『運命の力』ドン・カルロなどがある。新国立劇場初登場。



# ばらの騎士

Der Rosenkavalier

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2022年2/13(日)~2/15(火)

●一般発売日: 2022年2/20(日)

初演:1911年 1月26日/ドレスデン宮廷歌劇場

作曲:リヒャルト・シュトラウス

台本:フーゴー・フォン・ホフマンスタール

## プロダクションについて

ウィーン上流社会を舞台に、過ぎゆく時への思いや、若い新しい愛を、優美かつ豊麗な音楽で描いた絢爛たる傑作。劇作家ホフマンスタールとR.シュトラウスの名コンビの最高傑作で、あらゆるオペラの中でも最も贅沢で美しく、なかでも、第2幕の銀のばらの献呈シーン、終幕の三重唱は、観る者を陶酔の世界へ引き込む決定的な名場面です。細やかな人物描写に優れたジョナサン・ミラーの演出は、時代を18世紀から世界初演の1年後の1912年に移し、当時の聴衆が感じていた「時代の移ろい」をも作品から引き出しています。視覚的にも美しい舞台で、諦念と未来への希望が成熟したタッチで見事に描かれ、新国立劇場の数あるレパートリーの中でも抜群の人気を誇ります。

元帥夫人には、世界のトップソプラノとして活躍するアンネッテ・ダッシュュが08年以来待望の新国立劇場出演となります。指揮は来日も多いウィーン出身の指揮者サッシャ・ゲツェルが新国立劇場デビューを飾ります。



2017年公演より

## あらすじ

【第1幕】陸軍元帥夫人マリー・テレーズは、夫が不在の館で、若い恋人オクタヴィアンと甘いまどろみのなか朝を迎える。そこに元帥夫人の従兄オックス男爵がやってくる。新興貴族ファーニナルの娘ゾフィーと婚約するというオックスは、婚約者に銀のばらを贈る儀式の使者“ばらの騎士”を誰にしたらいいか相談しに来たのだ。逢瀬の現場を見られてはまずいと大慌ての2人だが、もう逃げられず、オクタヴィアンはかわいらしい小間使いマリアンデルに変装。女たらしのオックスは元帥夫人に相談しながらも小間使いが気になる様子。元帥夫人はオクタヴィアンを“ばらの騎士”に推薦する。その後、元帥夫人はひとり思いにふけり、年齢を重ねることの無常を思う。

【第2幕】“ばらの騎士”としてゾフィーに銀のばらを届けに来たオクタヴィアンは、一目で彼女と恋に落ちてしまう。オックス男爵が現れるが、彼のあまりにも無作法な態度にゾフィーは結婚を嫌がり、オクタヴィアンは婚約を取り消すようオックスに申し出る。しかしオックスが相手にしないため、オクタヴィアンは剣を抜く。オックスも剣を手に取るが、すぐにオクタヴィアンの剣の先が腕に当たる。負った傷はほんのかすり傷だが、オックスは泣きわめいて大騒ぎ。そこにマリアンデルから逢引の誘いの手紙が来て、オックスはすっかりご機嫌に。

【第3幕】逢引の場の安宿の一室には、オックスを懲らしめるための罠を仕込み、オクタヴィアンはマリアンデルに変装して準備万端。何も知らないオックスは浮足立ってやってきて“彼女”を口説こうとするが、いい雰囲気になろうというとき、幽霊が現れ、「彼の子」と称する子を連れた女や、警官が来て大騒動。すっかり追い詰められたオックスは婚約を破談にすることを了承する。そして元帥夫人は身を引く、オクタヴィアンとゾフィーを祝福する。



リヒャルト・シュトラウス

# ばらの騎士

Richard STRAUSS / Der Rosenkavalier

全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 .....	サッシャ・ゲッツェル
Conductor	Sascha GOETZEL
演出 .....	ジョナサン・ミラー
Production	Jonathan MILLER
美術・衣裳 .....	イザベラ・バイウォーター
Scenery and Costume Design	Isabella BYWATER
照明 .....	磯野 睦
Lighting Design	ISONO Mutsumi
元帥夫人 .....	アンネット・ダッシュ
Die Feldmarschallin	Annette DASCH
オックス男爵 .....	クリスティン・ジクムントソン
Der Baron Ochs auf Lerchenau	Kristinn SIGMUNDSSON
オクタヴィアン .....	マリア・カタエワ
Octavian	Maria KATAEVA
ゾフィー .....	安井陽子
Sophie	YASUI Yoko
ヴァルツァッキ .....	内山信吾
Valzacchi	UCHIYAMA Shingo
アンニーナ .....	加納悦子
Annina	KANOH Etsuko
警部 .....	妻屋秀和
Ein Polizeikommissar	TSUMAYA Hidekazu
料理屋の主人 .....	青地英幸
Ein Wirt	AOCHI Hideyuki
テノール歌手 .....	宮里直樹
Ein Sänger	MIYASATO Naoki

ほか

合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2022年	4月	3日(日)14:00	6日(水)18:00
		9日(土)14:00	12日(火)14:00

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

【会場】 オペラパレス

**主要キャスト・スタッフプロフィール**

**指揮: サッシャ・ゲッツェル**

Conductor : Sascha GOETZEL

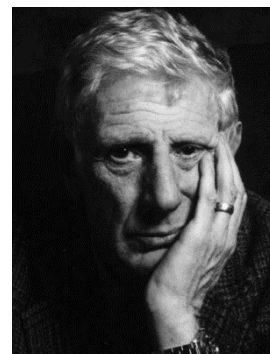
ウィーン生まれ。ウィーン国立歌劇場管弦楽団にてヴァイオリン奏者として活躍中、メータ、ヤンソンス、小澤征爾らの薫陶を受けた。小澤征爾より、指揮者のフェローシップとしてタングルウッド音楽祭に招かれた後、指揮をヨルマ・パヌラに師事。2008年よりボルサン・イスタンブール・フィルハーモニー管弦楽団 (BIFO) の芸術監督並びに首席指揮者。オペラでは、ウィーン国立歌劇場にて14年秋に大成功を収めた『フィガロの結婚』によるデビューに続き、『ドン・ジョヴァンニ』『ばらの騎士』『リゴレット』『ラ・ボエーム』『魔笛』『こうもり』などで定期的に出演。これまでに、イスラエル・フィル、バーミンガム市交響楽団、ハノーファー北ドイツ放送フィル、フランス国立管弦楽団、ベルリン交響楽団などに客演。国内では、NHK交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ、東京フィルハーモニー管弦楽団、読売日本交響楽団などで来日している。新国立劇場初登場。



**演出: ジョナサン・ミラー**

Production : Jonathan MILLER

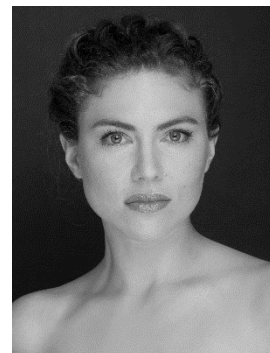
ロンドン生まれ。医学博士、作家、テレビプロデューサー、演劇・オペラの演出など幅広い分野で国際的に活躍。演劇演出家として、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの『ヴェニス商人』『じゃじゃ馬馴らし』や、1988年から90年まで芸術監督を務めたオールドヴィック劇場での『リア王』、80年からBBCが制作したシェイクスピアシリーズなど、シェイクスピア作品の演出で高い評価を得る。オペラ演出は74年のアレクサンダー・ゲアーの『Aedon Must Die』イギリス初演に始まり、その後もイングリッシュ・ナショナル・オペラなどで活躍、『ミカド』『リゴレット』『ねじの回転』『ばらの騎士』『カルメン』などで大成功を収める。また、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界各地で活躍している。新国立劇場では『ファルスタッフ』『ばらの騎士』を演出。2019年11月逝去。



**元帥夫人: アンネッテ・ダッシュュ(ソプラノ)**

Die Feldmarschallin : Annette DASCH

世界各地の歌劇場や音楽祭で活躍する、今日をリードするソプラノ。近年の重要な役に、ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、英国ロイヤルオペラ、テアトロ・レアル、シャンゼリゼ劇場、メトロポリタン歌劇場『フィガロの結婚』伯爵夫人、ザルツブルク音楽祭『アルミーダ』タイトルロール、パリ・オペラ座『ホフマン物語』アントニア、フランクフルト歌劇場、バイエルン州立歌劇場『タンホイザー』エリザベート、パイロイト音楽祭、スカラ座、バイエルン州立歌劇場、リセウ大劇場、フランクフルト歌劇場『ローエン格林』エルザ、メトロポリタン歌劇場『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、オランダ国立オペラ『イエヌーファ』タイトルロール、チューリヒ歌劇場『マハゴニー市の興亡』、ベルリン・ドイツ・オペラ、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場『こうもり』ロザリンデがある。2019年夏にはエクサンプロヴァンス音楽祭『マハゴニー市の興亡』、パイロイト音楽祭『ローエン格林』で大成功を収め、19/20シーズンはパリ・オペラ座『リア』レツィア、バイエルン州立歌劇場『こうもり』ロザリンデなどに、20年9月にはチューリヒ歌劇場『チャールダーシュの女王』、10月にはベルリン・ドイツ・オペラ『ファルスタッフ』(演奏会形式)に出演している。新国立劇場へは、03年『ホフマン物語』アントニア及び08年のニューイヤー・オペラパレス・ガラに出演して以来、待望の登場となる。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**オックス男爵:クリスティン・ジクムントソン(バス)**

Der Baron Ochs auf Lerchenau : Kristinn SIGMUNDSSON

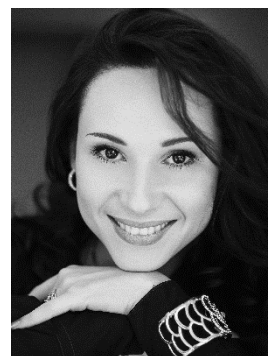
アイスランド生まれ。生物学者から歌手に転身、レイキャビク声楽アカデミーおよびウィーン音楽大学で学ぶ。アイスランドでの出演を経て、ヘッセン州立歌劇場と契約。以後、世界最人気のバス歌手として、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場などの著名劇場に出演。特にパリ・オペラ座では自身のレパートリーのほぼ全役で出演している。これまでにメトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、ヒューストン・グランド・オペラなどで、『ばらの騎士』オックス男爵、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『パルジファル』グルネマンツ、テアトロ・レアル『ローエン格林』ハインリヒ国王、『ワルキューレ』フンディング、『トリスタンとイゾルデ』マルケ国王、『ファウストの劫罰』メフィストフェレス、『リゴレット』スパラフチーレ、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなどに出演。新国立劇場では2013年『タンホイザー』領主ヘルマンに出演した。



**オクタヴィアン:マリア・カタエワ(メゾソプラノ)**

Octavian : Maria KATAEVA

ロシアのメゾソプラノ。サンクトペテルブルクのリムスキー＝コルサコフ音楽院を2012年に卒業。在学中にライン・ドイツ・オペラのオペラスタジオに参加。19年オペラリアコンクール第2位など国際コンクール入賞にも数多く入賞。ライン・ドイツ・オペラには『ヘンゼルとグレーテル』眠りの精、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『カルメン』カルメン、メルセデス、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ホフマン物語』ニクラウス/ミュース、『蝶々夫人』スズキなど数多くの役で出演。18年ザクセン州立歌劇場『カルメン』で大成功を収め、19/20シーズンには同劇場へ『ランスへの旅』メリベアー侯爵夫人で再登場した。同シーズン、ライン・ドイツ・オペラでは『アルチーナ』ルッジエーロ、『チェネレントラ』アンジェリーナ、『子どもと魔法』子どもに出演。21年1月にはザルツブルクのモーツァルト週間で『レクイエム』『ミサ・プレヴィイス』に出演。また、マチュラータ音楽祭へ『セビリアの理髪師』ロジーナでデビュー予定である。新国立劇場初登場。



**ソフィー:安井陽子(ソプラノ)**

Sophie : YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁在外研修員としてウィーン国立音楽大学に留学。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。以来『魔笛』夜の女王、オッフェンバック『青ひげ』ロザリンデで好演。国内では『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタなどに出演。新国立劇場では『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』頸子、『ばらの騎士』ソフィー、『アラベッラ』フィアッカミッリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリスト、『ホフマン物語』オランピア、『魔笛』夜の女王など数多く出演。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ヴァルツァッキ:内山信吾(テノール)**

Valzacchi : UCHIYAMA Shingo

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第36回日伊声楽コンクール入選。ドイツのブラウンシュヴァイク歌劇場で数多くの公演に出演。これまでに『蝶々夫人』ピンカートン、『カルメン』ドン・ホセ、『椿姫』アルフレードなどを演じている。新国立劇場では『マクベス』マルコム、『蝶々夫人』ゴロー、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ジノーヴィー・ボリゾヴィチ・イズマイロフ、『オテロ』ロデリーゴ、『ナブッコ』アブダッロ、『ばらの騎士』ヴァルツァッキ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』ゴローなど数多く出演、個性的な役柄で特に好評を博す。本年4月『イオランタ』ヴォデモン伯爵にも出演予定。東京オペラ・プロデュース会員。足利オペラ・リリカ登録専属アーティスト。



**アンニーナ:加納悦子(メソソプラノ)**

Annina : KANOH Etsuko

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍。最近では2013年9月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカを演じた。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス/ミューズ、『魔笛』侍女II、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『アルマゲドンの夢』インスペクターなどに出演している。13年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアートの詩」(ALM RECORDS)は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。令和元年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。二期会会員。



**テノール歌手:宮里直樹(テノール)**

Ein Sanger : MIYASATO Naoki

東京藝術大学首席卒業。同大学大学院修了。第48回日伊声楽コンクール第1位第10回東京音楽コンクール声楽部門第2位(1位なし)、同時に聴衆賞等受賞多数。2014年度明治安田クオリティオブライフ文化財団の海外音楽研修生として渡欧、ウィーン国立音楽大学にて2年間学ぶ。2015年度ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。これまでに秋山和慶、小泉和裕、小林研一郎、尾高忠明など著名指揮者のもとNHK交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団を始め国内主要オーケストラと共演。2017年10月に二期会公演『蝶々夫人』ピンカートン役で二期会デビューし大好評を博す。20年には東京芸術劇場/全国共同制作プロジェクト『ラ・トラヴィアータ(椿姫)』にアルフレードで出演し、喝采を浴びた。バッハ『マニフィカト』、『ロ短調ミサ』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト『戴冠ミサ』、ハイドン『天地創造』、ベートーヴェン『第九』等コンサートのソリストとしても活躍している。二期会会員。新国立劇場初登場。



# 魔笛

Die Zauberflöte

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2022年3/12(土)~3/14(月)

●一般発売日: 2022年3/20(日)

初演: 1791年9月30日/アウフ・デア・ヴィーデン劇場

作曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

台本: エマヌエル・シカネーダー

## プロダクションについて

“ジグシュピール(歌芝居)”として有名な『魔笛』は愛と冒険のファンタジーで、世界中で多くの子供たちが『魔笛』でオペラ鑑賞デビューを飾っています。「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲、そして夜の女王の歌う超絶技巧のアリア「地獄の復讐はわが心に燃え」など、次々に美しい曲が繰り出される様はまさに音の宝石箱のようです。現代アートの巨匠ウィリアム・ケントリッジのプロダクションは、素描を用いた神秘的な舞台で、人間の影と光を対比させる素朴な映像美、そして舞台からあふれ出すケントリッジならではの深い知性とポエジーが作品の本質を伝えます。一方で、『魔笛』が内包する啓蒙思想に植民地主義を通して光を当て、「善」や「力」についての洞察が込められています。

指揮は名匠オレグ・カエターニが新国立劇場初登場。甘美でしなやかな美声を誇る鈴木准、情感あふれる表現で人気を博すプリマドンナ砂川涼子ら屈指の日本人歌手が国内外から集結します。



2018年公演より

## あらすじ

【第1幕】森で大蛇に襲われ、恐ろしさの余り気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥さしのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと願う。パミーナに一目惚れしたタミーノは引き受ける。お礼に夜の女王は、タミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。

ザラストロの神殿にいるパミーナのもとにパパゲーノが行き、タミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかかまっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため神殿で試練を受けることに。これを経れば妻に会えると言ったパパゲーノも、しぶしぶ承諾する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、ザラストロを殺せ、と命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしだが、努力は認められ、伴侶のパパゲーノと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

# 魔笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte

全2幕 〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 .....	オレグ・カエターニ
Conductor	Oleg CAETANI
演出 .....	ウィリアム・ケントリッジ
Production	William KENTRIDGE
美術 .....	ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン
Set Design	William KENTRIDGE, Sabine THEUNISSEN
衣裳 .....	グレッタ・ゴアリス
Costume Design	Greta GOIRIS
照明 .....	ジェニファー・ティプトン
Lighting Design	Jennifer TIPTON
プロジェクション .....	キャサリン・メイバーク
Projection Design	Catherine MEYBURGH
タミーノ .....	鈴木 准
Tamino	SUZUKI Jun
弁者・僧侶 I・武士 II .....	町 英和
Sprecher, erster Priester und zweiter Geharnischter	MACHI Hidekazu
パミーナ .....	砂川涼子
Pamina	SUNAKAWA Ryoko
パパゲーナ .....	三宅理恵
Papagena	MIYAKE Rie
	ほか
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

Production of Aix-en-Provence Festival and Rouen Opera, created at Théâtre de la Monnaie in 2005

2022年	4月	16日(土) 14:00	18日(月) 18:30
		20日(水) 14:00	23日(土) 14:00
		24日(日) 14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

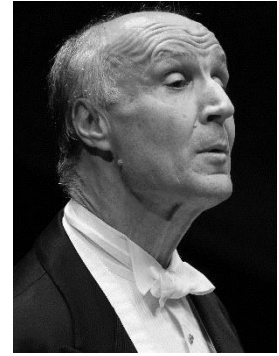
【会場】 オペラパレス

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 指揮:オレグ・カエターニ

Conductor : Oleg CAETANI

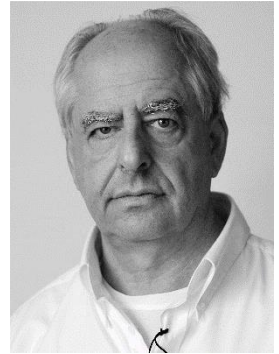
ローマ、モスクワ、サンクトペテルブルクで学ぶ。RAIコンクール、カラヤンコンクール優勝。ベルリン州立歌劇場でキャリアを開始し、ワイマール国民劇場、フランクフルト歌劇場、ヴィースバーデン州立劇場、ケムニッツ歌劇場で首席指揮者、音楽総監督を歴任。2005年～09年、メルボルン交響楽団音楽監督。ミラノのジュゼッペ・ヴェルディ管弦楽団に頻りに招かれるほか、ドレスデン・シュターツカペレ、バイエルン放送交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ウィーン交響楽団、バンベルク管弦楽団、東京都交響楽団などに客演。ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナーなどをレパートリーに20世紀の作品にも注力しており、特にショスタコーヴィチに精力的に取り組む。フランクフルト歌劇場『鼻』では、自らテキストをドイツ語へ翻訳。各国でショスタコーヴィチのオペラ、協奏曲などの現地での初演を度々行い、ショスタコーヴィチ交響曲全集も録音している。01年『トゥーランドット』でミラノ・スカラ座デビュー。最近の活動にはイングリッシュ・ナショナル・オペラ『恋するサージョン』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』、ケルン歌劇場『人間の声／青ひげ公の城』『ドン・カルロ』、ベルリン・ドイツ・オペラ、ノルウェー国立オペラ『蝶々夫人』、英国ロイヤルオペラ『トスカ』、ノルウェー国立オペラ、フィンランド国立歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』、トリエステ・ヴェルディ劇場『真珠採り』『コジ・ファン・トゥッテ』『カルメン』、ヴァイマール歌劇場『オテロ』などがある。新国立劇場初登場。



## 演出:ウィリアム・ケントリッジ

Production : William KENTRIDGE

南アフリカ生まれ。ドローイング、アニメーションフィルム、演劇活動やオペラ演出で国際的に評価されている現代美術家。政治学及びアフリカ学を学んだ後、ヨハネスブルク・アート・ファンデーションとパリ・エコール・ルコックで学ぶ。その活動は様々な手法やジャンルの相互的な融合から生まれ、南アフリカの社会的背景である植民地主義やアパルトヘイトといった負の遺産が反映されている。パステルや木炭のドローイングをコマ撮りした映像作品が多く、その理論は、ストップモーションや初期の特殊効果という映画の技術史そのものによる。1990年代より国際的に評価を高め、カッセルのドクメンタ、ニューヨーク近代美術館、ウィーン・アルベルティナー、サンフランシスコ近代美術館、フィラデルフィア美術館、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館、テート・モダンなどで個展が開かれる。近年はオペラ演出も多く、『ウリッセの帰還』『魔笛』『鼻』『ルル』『ヴォツェック』といった作品で、モネ劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、リヨン歌劇場、オランダ国立オペラ、ザルツブルク音楽祭、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などに登場している。ゴスラーの皇帝の指環賞、カーネギー賞、スタンダート銀行ヤングアーティスト賞、レッドリボン短編映画賞、京都賞、フランス芸術文化勲章コマンドゥール、アストゥリアス皇太子賞、高松宮殿下記念世界文化賞など数々の賞を受賞している。



## タミーノ:鈴木 准(テノール)

Tamino : SUZUKI Jun

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、『後宮からの逃走』ベルモンテ、一柳慧『愛の白夜』ヨニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリユ・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ好評を得た。14年にはびわ湖ホール『死の都』にバウル役で出演し絶賛される。15年には神奈川県民ホール『金閣寺』柏木に出演。新国立劇場では『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓、『フィデリオ』ジャッキー、『タンホイザー』ヴァルター、演奏会形式『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ウルリヒ・アイスリンガー、『さまよえるオランダ人』舵手にも出演予定。二期会会員。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## パミーナ:砂川涼子(ソプラノ)

Pamina : SUNAKAWA Ryoko

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。

2001～04年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。05年五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的にデビュー。藤原歌劇団『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタなどに出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。新国立劇場では『トゥーランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニア、『魔笛』パミーナ、『ウェルテル』ソフィー、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタなどに出演。21年7月には『カルメン』ミカエラに出演予定。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。



## パパゲーナ:三宅理恵(ソプラノ)

Papagena : MIYAKE Rie

東京音楽大学卒業、同大学院修了。バード音楽院特待奨学生修士課程修了。ドーン・アップショウに師事。10年藤沢オペラコンクール奨励賞受賞。これまでに小澤征爾音楽塾『カルメン』フラスキータ、日生劇場『フィデリオ』マルチェリーネ、NHK音楽祭におけるパーヴォ・ヤルヴィ指揮NHK交響楽団『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、その他『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『フィガロの結婚』バルバリーナなどに出演。オペラ以外にも、フォーレ『レクイエム』、シューベルト『ミサ曲第5番 変イ長調』、モーツァルト『レクイエム』、『雀のミサ』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』、カール・ジェンキンス『レクイエム』、アンドリュー・ロイド・ウェバー『レクイエム』など宗教曲のソリストとして活躍。新国立劇場では『パルジファル』花の乙女、鑑賞教室『愛の妙薬』ジャンネッタ、『ジークフリート』ハイライトコンサート「森の小鳥」に出演している。21年4月には『夜鳴きうぐいす』タイトルロールに、夏には『Super Angels スーパーエンジェル』にも出演予定。二期会会員。





# オルフェオとエウリディーチェ

Orfeo ed Euridice

オペラパレス | 3回公演 | 全3幕&lt;イタリア語上演/日本語及び英語字幕付&gt;

●会員先行販売期間: 2022年4/9(土)~4/11(月)

●一般発売日: 2022年4/16(土)

初演:1762年10月5日/ブルク劇場(ウィーン)

作曲:クリストフ・ヴィリバルト・グルック

台本:ラニエリ・カルツァビージ

## プロダクションについて

大野和士芸術監督のラインアップの大きな柱、バロック・オペラから、音楽と演劇の融合を目指した“オペラの改革者”グルックの代表作『オルフェオとエウリディーチェ』を勅使川原三郎演出、鈴木優人指揮で上演します。グルックは多くの作曲家が取り上げたギリシャ神話のオルフェウス伝説を題材に、バロック・オペラに特徴的な歌手の技巧を顕示するための装飾を抑え、オーケストラの役割を充実させて、劇的緊張に富んだオペラを完成させました。その演劇的な面白さにより、バロック・オペラの中でも群を抜いて今日の上演頻度の高い人気作となっています。

演出には、深い美意識で世界中にその名を轟かす振付家・ダンサー・演出家の勅使川原三郎を迎え、指揮は新時代のバロック奏者として、そして指揮者としてもプロデューサーとしても大活躍中の鈴木優人が当たります。

バロック・オペラのシリーズは第1弾として2020年4月に上演を予定していた『ジュリオ・チェーザレ』が惜しくも公演中止となったため、本作品が初の公演実現となります。

## あらすじ

【第1幕】亡き妻エウリディーチェの墓前で、何とか生き返らせようと祈りを捧げるオルフェオの前に、愛の神アモーレが現れる。アモーレはエウリディーチェの復活の可能性を示唆し、全能の神ゼウスの命令として、「オルフェオの歌で地獄の番人を慰めること」「地上に連れ戻すまでは決して彼女の顔を見てはならない、振り返れば彼女は永遠に失われる」と伝える。

【第2幕】冥界の入口には死霊や復讐の女神が待っている。オルフェオは歌で復讐の女神を慰める。エリゼの園で妖精たちと歌っているエウリディーチェを発見したオルフェオは妻の手を取り、彼女を観ないようにして地上へ向かう。

【第3幕】地上へ向かう暗い途上で、エウリディーチェは夫が自分を見ようとしないことに不安を募らせる。「なぜ私を見ないのか」と詰問する妻とゼウスの命令との間で煩悶するオルフェオは、ついに振り返って妻を見てしまう。その瞬間エウリディーチェは絶命する。絶望したオルフェオが自ら命を絶とうとするとアモーレが現れ、「真の愛が示された」とエウリディーチェに命を吹き込む。オルフェオとエウリディーチェは神に感謝する。

クリストフ・ヴィリバルト・グルック

# オルフェオとエウリディーチェ

Christoph Willibald von GLUCK / Orfeo ed Euridice

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 .....	鈴木優人
Conductor	SUZUKI Masato
演出・振付・美術 衣裳・照明 .....	勅使川原三郎
Production, Choreography, Set, Costume and Lighting Design	TESHIGAWARA Saburo
アーティストックコラボレーター .....	佐東利穂子
Artistic Collaborator	SATO Rihoko

エウリディーチェ .....	ヴァルダ・ウィルソン
Euridice	Valda WILSON
オルフェオ .....	ローレンス・ザッツ
Orfeo	Lawrence ZAZZO

ほか

合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2022年	5月	19日(木)19:00	21日(土)14:00
		22日(日)14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

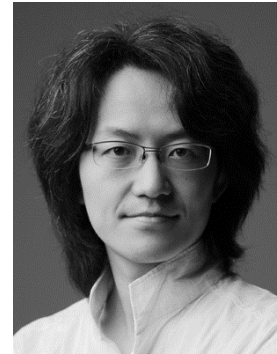
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:鈴木優人

Conductor: SUZUKI Masato

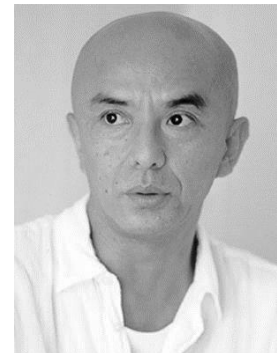
東京藝術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。第18回齋藤秀雄メモリアル基金、第18回ホテルオークラ音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) 首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者/クリエイティヴ・パートナー、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。指揮者としてNHK交響楽団、読売日本交響楽団等と共演。2017、20年には鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズを制作、上演。モンテヴェルディ：歌劇『ポッペアの戴冠』（17年）、ヘンデル：歌劇『リナルド』（20年）はバロック・オペラの新機軸として高く評価されるとともに多くの話題を呼んだ。メディアへの露出も多く、NHK-FM「古楽の楽しみ」レギュラー、テレビ朝日「題名のない音楽会」にもゲストとして度々出演している。録音はハルモニア・ムンディよりアントワン・タメスティ（ヴィオラ）との新譜をリリース（19年）。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー、舞台演出、企画プロデュース、作曲とその活動に垣根はなく各方面から大きな期待が寄せられている。新国立劇場ではコンサート・オペラ『ポッペアの戴冠』（バッハ・コレギウム・ジャパン共催、09年）に出演、田村吾郎氏と共に演出を手がけた。



演出・振付・美術・衣裳・照明:勅使川原三郎

Production, Choreography, Set, Costume and Lighting Design: TESHIGAWARA Saburo

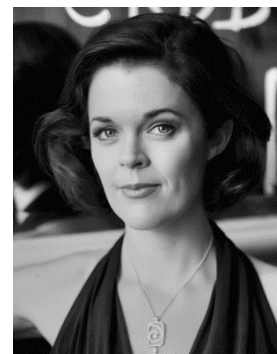
ダンサー、振付家、演出家。クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。85年、宮田佳と共にダンスカンパニーKARASを設立。以降、KARASと共に世界中の主要なフェスティバルや劇場から招聘され毎年公演を行う。独自のダンスメソッドを基礎に美術と音楽の稀有な才能によって創作をつづける。身体と空間を質的に変化させる唯一無二な身体表現は高い評価と支持を得て、80年代以降、フランクフルトバレエ団、NDTやパリ・オペラ座バレエ団（3創作）を始めとしたヨーロッパの主要バレエ団に委嘱振付、エクサンプロヴァンス音楽祭（『アシスとガラテア』）、フェニーチェ歌劇場（『ディドとエネアス』）等でのオペラ演出、映像やインスタレーション作品の製作等、芸術表現の新たな可能性を開くアーティストとして創作依頼が多数。2015年にはパリ・シャンゼリゼ劇場の委嘱により新作オペラ『ソラリス』を藤倉大と共に創作、台本・演出・美術・照明・衣裳を担当した。13年に東京・荻窪に活動拠点として劇場カラス・アパラタス開設、年間を通して「アップデートダンス」公演で新作を発表している。14年度から多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科教授。20年から愛知県芸術劇場芸術監督に就任。07年ベッシー賞、芸術選奨文部科学大臣賞、09年紫綬褒章、17年フランス芸術文化勲章オフィシエ他、国内外での受賞多数。新国立劇場でオペラを演出するのは本作品が初となる。



エウリディーチェ:ヴァルダ・ウィルソン(ソプラノ)

Euridice: Valda WILSON

オーストラリア出身。シドニー音楽院で学び、数々の賞や奨学金を獲得してロンドンのオペラスタジオで研鑽を積む。ザクセン州立歌劇場若手専属歌手のメンバーとなった後、ザルツブルク音楽祭、ヴェルビエ音楽祭の若手歌手プログラムにも参加。オルデンブルク歌劇場専属歌手を経て、17/18シーズンよりザールブリュッケン歌劇場専属歌手。これまでに、ザルツブルク音楽祭『子供のための魔笛』パミーナ、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ルサルカ』、ヴェルビエ音楽祭『セビリアの理髪師』ロジーナ、ザクセン州立歌劇場『魔笛』パミーナとパバゲーナ、ザルツブルク音楽祭『カルミナ・ブラーナ』、オルデンブルク歌劇場『ファルスタッフ』アリーチェ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『メリー・ウィドウ』ハンナ・グラヴァリ、『夏の夜の夢』ヘレナなどに出演している。ザールブリュッケン歌劇場では『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ソラリス』ハリー、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ファウスト』マルグリート、『ばらの騎士』元帥夫人、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ファウスト』マルグリート、『メリー・ウィドウ』ハンナ・グラヴァリ、『ドン・カルロ』エリザベッタなどに出演している。新国立劇場初登場。

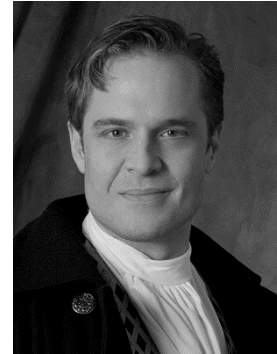


主要キャスト・スタッフ プロフィール

**オルフェオ:ローレンス・ザッツ (カウンターテナー)**

Orfeo : Lawrence ZAZZO

アメリカのカウンターテナー。ロンドンの王立音楽院在学中にブリテン『夏の夜の夢』オーペロンでデビュー。同役はその後カナディアン・オペラ・カンパニー、エクサンプロヴァンス音楽祭、ハンブルク州立歌劇場で出演、昨シーズンはウィーン国立歌劇場のイリーナ・ブルックの新演出で出演している。近年では、モネ劇場、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ザクセン州立歌劇場、パリ・オペラ座の『ジュリオ・チェーザレ』タイトルロール、バイエルン州立歌劇場『ポントの王ミトリダーテ』ファルナーチェ、メトロポリタン歌劇場『ジュリオ・チェーザレ』トロメオなど世界の主要劇場のほか、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『ラダミスト』タイトルロール、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『オルランド』、フランクフルト歌劇場『タメルラーノ』タイトルロール、英国ロイヤルオペラのオラトリオ『ソロモン』タイトルロールに出演。2021年ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭及びザルツブルク音楽祭のヘンデルのオラトリオ『時と悟りの勝利』に出演を予定している。新国立劇場初登場。



# ペレアスとメリザンド

Pelléas et Mélisande

オペラパレス | 5回公演 | 全5幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2022年5/15(日)~5/17(火)

●一般発売日: 2022年5/21(土)

初演:1902年4月30日/オペラ・コミック座(パリ)

作曲:クロード・アシル・ドビュッシー

台本:モーリス・メーテルリンク

## プロダクションについて

フランス印象主義の作曲家ドビュッシー唯一のオペラ『ペレアスとメリザンド』。フランス独自のオペラを目指したドビュッシーは、ライトモチーフの手法を取り入れる一方、独特の語法を用いてメーテルリンクの戯曲に描かれた光や水、霧や風といった自然の息吹を色彩感と陰影に富んだ音楽で表現し、フランス語の韻律と音楽を融合させて、登場人物の苦悩や感情の高まりを抑制したタッチで濃密に描きました。閉鎖的な城の愛憎の日々が神秘的、象徴的に緊張感のうちに綴られ、幕切れでは後奏がもたらす静けさがドラマを浄化します。

演出のケイティ・ミッチェルは演劇大国イギリスで演劇、オペラ演出で活躍し、独自の感性と論理がもたらすリアリティが高く評価される演出家。『ペレアスとメリザンド』は2016年エクサンプロヴァンス音楽祭で初演されたプロダクションで、ある一家へやって来た女性の夢としてドラマを現代に蘇らせ、絶賛を博したものです。指揮はフランス・オペラへも注力する大野和士芸術監督自らが当たります。ペレアス、メリザンドにはベルナル・リヒター、カレン・ヴルシュとこの作品を特に得意とする旬の歌手、ゴローにはエクサンプロヴァンス公演でもこのプロダクションのゴローに出演したロラン・ナウリが出演します。



エクサンプロヴァンス音楽祭公演より  
©Patrick Berger/ArtComPress

## あらすじ

### 【第1部】

狩の途中で道に迷ったゴローは、水辺で泣く女性メリザンドを見つけ連れて帰る。半年後、ゴローは異父弟ペレアスへ、祖父の老王アルケルから結婚の許しを得て欲しいという手紙を送る。王はゴローの新しい妻を迎え入れることとする。城にやって来たメリザンドとペレアスが出会い、二人は彼女の乗ってきた船が去る光景を見つめ言葉を交わす。ペレアスは庭園の「盲人の泉」にメリザンドを誘い、その力について語る。メリザンドはゴローからの結婚指輪を泉に落としてしまう。その瞬間、ゴローは森で落馬し深手を負っていた。居室で夫を介抱するうち、メリザンドはこの城では心が休まらなると訴える。その時妻の手に指輪がないと気付いたゴローに激しく追及され、メリザンドはゴローの息子イニョルドに貝を拾っているうち失くしたと嘘をつく。ゴローの命令で、メリザンドはペレアスを伴い、恐怖に震えながら海辺の洞窟へ赴く。

月光の晩、寝室でメリザンドが髪を梳くと、通りかかったペレアスはその長い髪に陶然となる。そこへゴローが来て、二人の振る舞いを責める。翌日、ゴローはペレアスを地下に連れて行き、身重のメリザンドを刺激しないよう言い渡す。ゴローはイニョルドに、ペレアスとメリザンドの様子について詰問し、母の寝室を覗くよう強要する。

### 【第2部】

アルケルとメリザンドが語る部屋へ、嫉妬心に駆られたゴローが来て、妻の髪を掴んで引き倒す。夜、いよいよ旅立つというペレアスに請われ、メリザンドは泉に赴く。月光の下で二人はついに愛を告白し、口づけを交わす。そこへゴローが現れ、ペレアスは殺される。

逃げ延びたメリザンドは女の子を産み落とし、死の床にあった。ゴローは妻に許しを請いながらも、弟との関係を執拗に問い始める。メリザンドから真実が語られることはない。アルケルがゴローを制し、赤子をメリザンドに抱かせようと渡す。メリザンドが息を引き取り、皆取り残される。

※本プロダクションでは2部構成で上演されます。

クロード・アシル・ドビュッシー

# ペレアスとメリザンド

Claude Achille DEBUSSY / Pelléas et Mélisande

全5幕〈フランス語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 .....	大野和士
Conductor	ONO Kazushi
演出 .....	ケイティ・ミッチェル
Production	Katie MITCHELL
美術 .....	リジー・クラッチャン
Set Design	Lizzie CLACHAN
衣裳 .....	クロエ・ランフォード
Costume Design	Chloé LAMFORD
照明 .....	ジェイムズ・ファーンコム
Lighting Design	James FARNCOMBE
演出補 .....	ジル・リコ
Revival Director	Gilles RICO

ペレアス .....	ベルナール・リヒター
Pelléas	Bernard RICHTER
メリザンド .....	カレン・ヴルシュ
Mélisande	Karen VOURC'H
ゴロー .....	ロラン・ナウリ
Golaud	Laurent NAOURI
アルケル .....	妻屋秀和
Arkel	TSUMAYA Hidekazu
ジュヌヴィエーヴ .....	浜田理恵
Geneviève	HAMADA Rie

ほか

合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

共同制作： エクサンプロヴァンス音楽祭、ポーランド国立歌劇場

Co-production with the Festival d'Aix-en-Provence, Teatr Wielk-Polish National Opera

2022年	7月	2日(土)14:00	6日(水)18:30
		9日(土)14:00	13日(水)14:00
		17日(日)14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

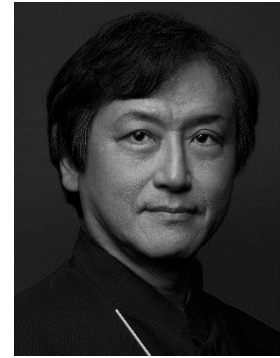
【会場】 オペラパレス

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』を指揮しており、今後は20/21シーズン『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、21/22シーズン『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』を指揮する予定。



## 演出:ケイティ・ミッチェル

Production : Katie MITCHELL

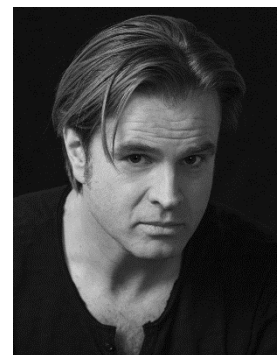
演劇とオペラの演出で活躍するイギリス人演出家。ロイヤル・シェイクスピア・シアター、ロイヤルコート劇場、ナショナルシアターでアソシエイト・ディレクターを務める。最近の主な演出作品に、オペラでは、英国ロイヤルオペラ『New Dark Age』『ルチア』『Lessons in Love and Violence』、バイエルン州立歌劇場『青ひげ公の城』、パリ・ブッフ・デュ・ノール劇場『Zauberland』、エクサンプロヴァンス音楽祭『The House Taken Over』『アルチーナ』『ペレアスとメリザンド』『ナクソス島のアリアドネ』、英国ロイヤルオペラ、エクサンプロヴァンス音楽祭『Written on Skin』（世界初演）、オランダ国立オペラ『イエスーファ』、オペラ・コミック座『ミランダ』、ベルリン州立歌劇場『Le Vin herbé』『Neither』、ザルツブルク音楽祭、ベルリン州立歌劇場『Al gran sole carico d'amore』など、演劇ではシャウビューネ『オーランドー』『Shadows (Eurydice Speaks)』『Ophelias Zimmer』『Lungs』『The Yellow Wall Paper』『令嬢ジュリー』、ニューヨーク・ザ・シェッド『Troy』、ハンブルク・シャウシュピールハウス『The Rest Will Be Familiar to you from Cinema』『Reisende auf einem Bein』『Happy Days』『Sleeping Men』『Bluets』、ブッフ・デュ・ノール劇場『La Maladie de la Mort』、トネールグループ・アムステルダム『The Maids』、ロイヤルコート劇場『Anatomy of a Suicide』、ザルツブルク音楽祭『Forbidden Zone』、ケルン・シャウシュピールハウス『Reise durch die Nacht』『Rings of Saturn and Wunchkonzert』、ナショナルシアター『When We Have Sufficiently Tortured Each Other』『Cleansed』『Waves』『Women of Troy and Iphigenia at Aulis』などがある。2009年、大英帝国勲章OBE受勲。19年、インターナショナル・オペラアワード最優秀演出家賞受賞。新国立劇場初登場。



## ペレアス:ベルナール・リヒター(テノール)

Pelléas : Bernard RICHTER

スイス出身の新世代を代表するテノール。近年はミラノ・スカラ座への出演が続き、シュペルトのオペラ『フィエラプラス』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『イドメネオ』タイトルロールなどに出演。イドメネオ役はウィーン国立歌劇場でも歌っている。また、『ペレアスとメリザンド』ペレアスはウィーン国立歌劇場、ワルシャワ大劇場、リヨン歌劇場で出演している。このほか、ヴェルビエ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、オランダ国立オペラ『ロゼリンダ』グリマルド、アン・デア・ウィーン劇場『さまよえるオランダ人』エリック、『ベアトリーチェとベネディクト』ベネディクト、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオなどにも出演。ベルリン交響楽団、MDRライブツィヒ放送交響楽団、ストラスブルク管弦楽団、RAI交響楽団などのオーケストラへの客演も多い。新国立劇場初登場。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

**メリザンド:カレン・ヴァルシュ(ソプラノ)**

Mélisande : Karen VOURCH

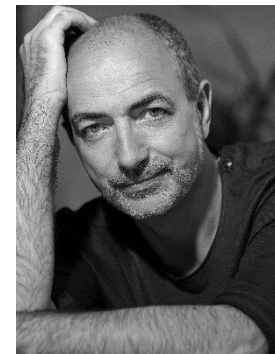
現代曲で特に知られるフランスのソプラノ。世界各地の歌劇場やコンサートに出演し、サーリアホ、デュパサン、コネソンの作品を演奏しており、中でもハヤ・チェルノヴィン作曲

『Infinite Now』は2017年Opernwelt誌年鑑の最優秀プレミア作品に選出された。オペラの出演も多く、中でも『人間の声』『ペレアスとメリザンド』では、パリ（オペラ・コミック）、ロンドン、ケルン、ストックホルム、ハンブルク、東京（NHK交響楽団）、サンクトペテルブルクなど各地で絶賛されている。録音にはグリーグ、シベリウス、ドビュッシーの歌曲、モンテヴェルディのカンタータ、リヨン管弦楽団と共演したラヴェルの歌曲、オペラ・コミック『ペレアスとメリザンド』、ストラスブル・フィルと共演したサーリアホの『4つの瞬間』『Emille Suite』などがある。新国立劇場初登場。

**ゴロー:ロラン・ナウリ(バリトン)**

Golaud : Laurent NAOURI

マルセイユ国立オペラ歌手研修所（CNIPAL）、ギルドホール音楽演劇学院で学ぶ。バロックから現代オペラまで約40役に及ぶ広いレパートリーを持ち、『ホフマン物語』悪役4役、『ペレアスとメリザンド』ゴロー、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ファルスタッフ』タイトルロール、『サンドリヨン』パンドルフ、『炎の天使』ルプレヒトなどでメトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、リヨン歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭など世界の歌劇場、音楽祭に出演。最近ではメトロポリタン歌劇場『ロメオとジュリエット』キャピュレットと『ホフマン物語』悪役4役、英国ロイヤルオペラ『ニンダの天使』（ドニゼッティ）ドン・ガスパール、シャンゼリゼ劇場『椿姫』ジェルモン、リヨン歌劇場、ジュネーヴ大劇場『劇場の都合、不都合』マンマ・アガタ、パリ・オペラ座『蝶々夫人』シャープレス、『ホフマン物語』悪役4役などに出演している。新国立劇場初登場。

**アルケル:妻屋秀和(バス)**

Arkel : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。18/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムール、20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』警部にも出演予定。二期会会員。





## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## ジュヌヴィエーヴ: 浜田理恵 (ソプラノ)

Geneviève : HAMADA Rie

東京藝術大学卒業、同大学院修了。パリに留学。第19回パリ国際声楽コンクールオペラ部門第1位。シャトレ座『アリアーヌと青髭』でオペラ・デビューし、パリ・オペラ座『火刑台上のジャンヌ・ダルク』聖母マリア、シャトレ座『北緯60度線』(世界初演)マリア、トゥールーズ歌劇場、リヨン歌劇場『ラ・ボエーム』ミミのほか、トゥールーズ、アヴィニョン、トゥールなどで『トゥーランドット』リュウ、『皇帝ティトの慈悲』ヴィテッリア、『ファウスト』マルグリットなどに出演。ピエール・ブーレーズ率いるアンサンブル・アンテルコンタンポランとはヨーロッパツアーを行い、その後ザルツブルク音楽祭でコンサートと録音を行う。日本ではびわ湖ホール『ドン・カルロ』エリザベッタ、『ジョヴァンナ・ダルコ』タイトルロール、兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』タイトルロールなどに出演。新国立劇場では『トゥーランドット』リュウ、『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニア、コンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』メリザンドに出演している。



## 令和3年度公演 〈3 演目 10 公演〉

2021 年 8 月  
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ

### Super Angels スーパーエンジェル

Super Angels | 渋谷慶一郎  
2回公演

2021 年 7 月  
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021  
(新国立劇場公演)

### カルメン

Carmen | G. ビゼー  
6回公演

2021 年 10 月  
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021  
(ロームシアター京都公演)

### ドン・パスクワレ

Don Pasquale | G. ドニゼッティ  
2回公演

子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ

2021年8/21~22  
＜新制作 創作委嘱作品・世界初演＞

# Super Angels スーパーエンジェル

New Production  
Commissioned Work,  
World Premiere

New Opera with Children and an Android

## Super Angels

オペラパレス | 2回公演 | 全1幕〈日本語上演／日本語及び英語字幕付〉

●会員先行販売期間：2021年7/3(土)～7/5(月)

●一般発売日：2021年7/10(土)

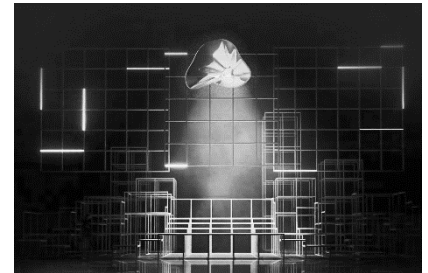
企画監修：大野和士  
台本：島田雅彦  
作曲：渋谷慶一郎

### プロダクションについて

大人も子どもも誰もが楽しめる特別企画。人工生命搭載アンドロイド「オルタ3」が出演し、様々な子どもたちの合唱と関わり合いながら歌い、演じる、新しいオペラが誕生します。アンドロイドと子供たち、オペラ歌手と合唱団、バレエダンサーにオーケストラ、そして映像やデザインも一体となったオペラが、科学技術や共生をテーマにした世界へと誘います。

新国立劇場オペラ芸術監督の大野和士が企画し、台本を作家の島田雅彦に、作曲を初音ミクのボーカロイドオペラ『THE END』やアンドロイド・オペラ『Scary Beauty』を手掛ける音楽家・渋谷慶一郎に委嘱。指揮は大野、小川絵梨子が演出監修、舞踊シーンの振付は新国立劇場バレエ団の貝川鐵夫（大原永子監修）と、オペラの枠を超えたスケールのコラボレーションを行います。総合舞台美術として、美術・衣裳・照明・映像のディレクションは、日欧にて活躍し、日本人として初めてワールドステージデザイン銅賞に輝き、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館の英国最優秀舞台美術展にも二度に渡り選出された針生康<sup>はりうしずか</sup>。刺激的なミュージックビデオで世界的に名を馳せるビジュアルアーティストのウィアードコアの映像とのコラボレーションが、オペラパレスの舞台に展開します。

自ら歌い指揮するアンドロイドとして国内外で大評判のオルタ3がオペラパレスで見せる新たな顔にも、熱い視線が注がれています。最先端の技術を融合させ、未来への共生のメッセージを込めた新しいオペラの誕生です。新国立劇場が舞台芸術の可能性を世界へ発信する機会に、どうぞご注目ください。



『Super Angels スーパーエンジェル』  
舞台装置イメージ

### あらすじ

ある学園の卒業式。卒業生たちは15歳になると適性検査で選別され、全知全能AI「マザー」の管理下に置かれる。アキラは判定により開拓地に送られることになり、教育係のヒューマノイド型AIゴーレム3と出会う。ゴーレム3はアキラと深い心の交流を通じ、恋の切なさや夢見る力を感じ取りながら、何かとてつもないものを作り出そうとしていた。

子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ

渋谷慶一郎

# Super Angels スーパーエンジェル

SHIBUYA Keiichiro / Super Angels

全1幕〈日本語上演／日本語及び英語字幕付〉

総合プロデューズ・指揮 General Producer / Conductor	大野和士 ONO Kazushi
台本 Libretto by	島田雅彦 SHIMADA Masahiko
作曲 Composed by	渋谷慶一郎 SHIBUYA Keiichiro
演出監修 Supervisor of Stage Direction	小川絵梨子 OGAWA Eriko
総合舞台美術(装置・衣裳・照明・映像監督)・ Creative Art Director (Set, Costume, Lighting Design and Video Direction)	針生 康 HARIU Shizuka
映像 Video	ウィアードコア Weirdcore
振付 Choreographer	貝川鐵夫 KAIKAWA Tetsuo
舞踊監修 Choreographic Advisor	大原永子 OHARA Noriko
演出補 Associate Stage Director	澤田康子 SAWADA Yasuko
オルタ3プログラミング Alter 3 Programming	今井慎太郎 IMAI Shintaro
ゴーレム3 Golem 3	オルタ3 (Supported by mixi, Inc.) Alter 3 (Supported by mixi, Inc.)
アキラ Akira	藤木大地 FUJIKI Daichi
エリカ Erika	三宅理恵 MIYAKE Rie
ジョージ George	成田博之 NARITA Hiroyuki
ルイジ Luisi	小泉詠子 KOIZUMI Eiko
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National theater Chorus
	ほか
ダンサー Dancers	渡邊峻郁、木村優里、渡辺与布 中島瑞生、渡邊拓朗 (新国立劇場バレエ団) WATANABE Takafumi, KIMURA Yuri, WATANABE Atsu, NAKAJIMA Mizuki, WATANABE Takuro (The National Ballet of Japan)
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

[新国立劇場三部門 連携企画] 芸術監督 大野和士 (オペラ)  
吉田 都 (舞踊)  
小川絵梨子 (演劇)

2021年

8月

21日(土)14:00

22日(日)14:00

【チケット料金】 こども(4歳から小学生):3,300円 ・ おとな(中学生以上):6,600円

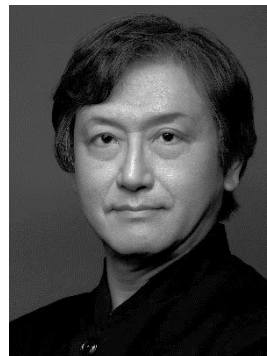
【会場】 オペラパレス

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 総合プロデューズ・指揮：大野和士

General Producer / Conductor : ONO Kazushi

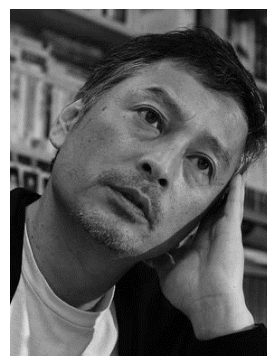
東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』を指揮しており、今後は20/21シーズン『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』21/22シーズン『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』を指揮する予定。



## 台本：島田雅彦

Libretto : SHIMADA Masahiko

1984年東京外国語大学ロシア語学科卒。在学中の1983年『優しいサヨクのための嬉遊曲』でデビュー。主な作品に『自由死刑』、『退魔姉妹』（伊藤整文学賞）、『徒然王子』、『悪貨』、『虚人の星』（毎日出版文化賞）、『カタストロフ・マニア』、『絶望キャラメル』ほか多数。『忠臣蔵』、『J r. バタフライ』のオペラ台本ははじめ、多くの楽曲に詞を提供している。2011年より芥川賞選考委員。法政大学国際文化学部教授。



## 作曲：渋谷慶一郎

Music : SHIBUYA Keiichiro

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、2002年に音楽レーベルATAKを設立。作品は先鋭的な電子音楽作品からピアノソロ、オペラ、映画音楽、サウンド・インスタレーションまで多岐にわたる。2012年、初音ミク主演による人間不在のボーカロイド・オペラ『THE END』を発表。初音ミク及び渋谷慶一郎の衣装をルイ・ヴィトンが担当し、斬新なコラボレーションが話題を呼ぶ。同作品はパリ・シャトレ座での公演を皮切りに世界中で公演が行われている。2018年にはAIを搭載した人型アンドロイドがオーケストラを指揮しながら歌うアンドロイド・オペラ『Scary Beauty』を発表、日本、ヨーロッパ、UAEなどで公演を行う。2019年9月にはアルス・エレクトロニカ（オーストリア・リンツ）で仏教音楽の声明とエレクトロニクスによる新作『Heavy Requiem』を披露。作品は常に人間とテクノロジー、生と死の境界領域を問いかけている。2020年9月には映画『ミッドナイトスワン』の音楽を担当、本作で2021年1月に第75回毎日映画コンクール音楽賞を受賞。これまでに人工生命研究者の東京大学教授 池上高志、ロボット学者の大阪大学教授 石黒浩、アーティストの杉本博司、パリ・オペラ座・エトワールのジェレミー・ベランガールらとパリ・オペラ座、パレ・ド・トーキョーなどで横断的なコラボレーションを行っている。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 演出監修:小川絵梨子

Supervisor of Stage Direction : OGAWA Eriko

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に、『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『ART』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『死の舞踏/令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』など。

新国立劇場では『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首一幻に長崎を想う曲』『星ノ数ホド』『OPUS/作品』の演出のほか、『かもめ』『ウインズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。



## 総合舞台美術:針生 康

Creative Art Director (Set, Costume, Lighting Design and Video Direction) : HARIU Shizuka

英国舞台建築博士。文化庁新進芸術家海外派遣制度・ポーラ美術財団の助成により渡英。モネ王立歌劇場・ローザスで舞台美術助手を務めた。欧州・日本を中心にダンス・バレエ・オペラなどの舞台美術、空間デザイン・アートディレクションを手がける。主要作品にアクラム・カーン&シルヴィ・ギエム『聖なる怪物たち』、RA英国王立芸術院『Sencing Spaces』、『BELLS FOR PEACE』(オノヨーコ監修)タワーデザイン他多数。受賞作品としては、サントリーホールサマーフェスティバル2019『リトゥン・オン・スキン』(大野和士監修)の舞台総合美術を担当、第18回佐川吉男音楽賞受賞。『Solid Traces』にて日本初ワールドステージデザイン2017銅賞受賞。また『Dystopian Dream』2015～19年、新国立劇場Japan Dance Project『CLOUD/CROWD』2011～14年が英国最優秀舞台美術に選出され、同作品にて舞台美術世界博ブラハ・カドリエンナーレ(PQ)2015、PQ2019、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館等で発表された。現在SHSH Architecture + Scenographyを建築家萩原ボクダン新と共同代表。



## 映像:ウィアードコア

Video : Weirdcore

ロンドンを拠点に活動。その作品は、意識と視覚の境界を広げるデザインとアニメーションの経験の結果である。アーティストや音楽家の用いるメソッドで、アイデアに助言を与え視覚化し、様々な体裁、色、デザイン、メディアをユニークに融合させた独自のプロジェクトを創造する。エイフェックス・ツイン、M.I.A.、スクリレックス、マイリー・サイラスといったミュージシャンやハイブ・ウィリアムズ、ソフィー・ミュラー、ダイアン・マルテルらの映像作家のような現代の最も刺激的なアーティストとコラボレートし、画期的なビデオ、インスタレーションなどを手がけている。ワープ・レコーズ、XLレコーディングス、ソニー、ニンジャ・チューン、ドミノ・レコーズなどの組織やレーベルにも独自のセンスや知識を提供し、ファッションや演劇、オペラなど様々な領域へダイナミックで流動的な活動を広げている。最近では、チーム・インパラの「Cause I'm a Man」のミュージックビデオのCG、制作中のM.I.A.のアルバムのビジュアルを手がける。高度に形成したエレメントを用いて、イメージの終結点へのディレクションの月並みな概念を打ち破り、2Dと3Dの間をシームレスに並行させ、ビデオやコマーシャル映像、ライブ映像、ファッションフィルムに斬新な感覚でアプローチする。その感性はラフで生で、最新でありながら常に有機的であり、決定的なエッジのある芸術的二極性の探求の実践たるテクノロジーに駆り立てられているのである。新国立劇場初登場。

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 振付: 貝川鐵夫

Choreographer : KAIKAWA Tetsuo

兵庫県出身。平櫛バレエ姫路、潮田弘子バレエ研究所を経て、ワガノワバレエ学校に留学し、1998年卒業。99年モナコ・プリンセスグレース・アカデミーに留学。2000年新国立劇場バレエ団に入団し、04年ソリスト、11年ファースト・ソリストに昇格。『白鳥の湖』『ドン・キホーテ』『シンデレラ』主役のほか、幅広い作品で重要な役柄を踊る。NBJコレオグラフィック・グループでは意欲的に作品を発表し、『フォリア』が16年「ニューイヤー・バレエ」でも上演されるなど、振付家としての活躍も期待される。主な受賞歴に、96年こうべ全国洋舞コンクール・バレエ男性ジュニアの部第2位、12年姫路市芸術文化奨励賞など。新国立劇場バレエ団ファースト・ソリスト。



## 舞踊監修: 大原永子

Choreographic Advisor : OHARA Noriko

橘秋子、牧阿佐美、アレクサンドラ・ダニロワ、イゴール・シュベツォフに師事。橘バレエ学校を卒業後、橘バレエ団を経て 1956年、牧阿佐美バレエ団結成と同時に入団。62年に『白鳥の湖』の主役に抜擢され、以後同団のプリマ・バレリーナとして古典、創作を問わず数多くの作品に主演する。71年にアメリカに留学し、74年に渡英。ニュー・ロンドン・バレエからロンドン・フェスティバル・バレエ、さらにスコティッシュ・バレエへと移籍。77年、スイスのパーゼル・バレエに一時在籍した後、78年に再びスコティッシュ・バレエに戻り、96年までプリンシパル・ダンサーとして活躍。72年舞踊批評家協会賞、82年芸術選奨文部大臣賞、91年服部智恵子賞を受賞。96年よりスコティッシュ・バレエでコーチを務める。97年には大英勲章(OBE)を日本人アーティストとして初めて授与された。2004年紫綬褒章受章。12年橘秋子賞特別賞受賞。14年に旭日小綬章を受章。17年第65回舞踊芸術賞受賞。1999年より新国立劇場バレエ団のバレエ・ミストレスを務め、2010年に同バレエ団の監督補。14年から20年8月まで新国立劇場舞踊芸術監督を務めた。



## オルタ3プログラミング: 今井慎太郎

Alter 3 Programming : IMAI Shintaro

コンピュータ音楽家。音や物の微細な運動の剪定と矯正による創作を行う。国立音楽大学およびパリのIRCAMにて学び、2002年から03年まで文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツのZKMにて研究活動を、また04年にDAADベルリン客員芸術家としてベルリン工科大学を拠点に創作活動を行う。08年よりバウハウス・デッサウ財団にてバウハウス舞台の音楽監督を度々務める。15年に作品集『動きの形象』を発表。プールジュ国際電子音楽コンクールにてレジデンス賞、ムジカ・ノヴァ国際電子音楽コンクール第1位および若い作曲家のための特別賞、EARPLAY作曲家賞、ZKM国際電子音楽コンクール第1位などを受賞。数々の国際的な音楽フェスティバルにて作品が上演されている。ドイツにおいては、04年にベルリニシェ・ガレリーにて作品個展を、11年のメルツムジーク音楽祭ではベルクハインにて単独公演を行うほか、16年のシヌストン音楽祭にレジデンス作曲家として招聘された。現在、国立音楽大学准教授および東京大学非常勤講師。





## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

### ゴレム3:オルタ3

Golem 3 : Alter 3

人間とのコミュニケーションの可能性を探るために開発された人工生命×アンドロイド「オルタ3」。コミュニケーション創出カンパニーであり、オルタ3のシミュレーターを提供した「ミクシィ」、世界的なアンドロイド研究のパイオニアである「大阪大学石黒研究室」、ALife(人工生命)研究のパイオニアである「東京大学池上研究室」、本プロジェクトの実証実験の場を提供する「ワーナーミュージック・ジャパン」によって2019年2月に共同研究プロジェクトとして発足。

オルタ3は、機械が露出したむき出しの体、性別や年齢を感じさせない顔といった特徴により、人の想像力を喚起し、これまでにない生命性を感じさせることを目指したアンドロイドロボットである。この研究の挑戦は、外界との相互作用により、ロボットが生命感を自ら獲得することができるかどうか、また、これを通じて、生命とは何かといった根源的な問いに答えることである。

プロジェクト発足以来、オルタ3のコラボレートメンバーとして、音楽家渋谷慶一郎氏による『Scary Beauty (スケアリー・ビューティ)』のドイツ、UAE公演、日本科学未来館キュレーター内田まほろ氏の企画によるロンドン・バービカンセンターでの展示、東京・六本木の森美術館の「未来と芸術展」への出展、mutek Japanへの出演など、人間とアンドロイドによる新たなコミュニケーションとアート、音楽、サイエンスの未来を問い続けている。

「オルタ」シリーズ共同研究：石黒浩、小川浩平、池上高志、土井樹

オルタ3ソフトウェア設計・開発：今井慎太郎、池上高志、長嶋海里

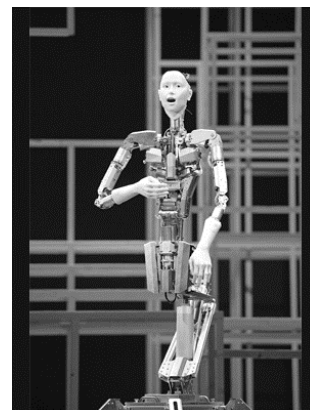
オルタ3シミュレーター開発：株式会社ミクシィ

オルタ3提供：株式会社ミクシィ

統括プロデューサー：木村弘毅（株式会社ミクシィ）

特別協力：東京大学、大阪大学、国立音楽大学、株式会社ミクシィ、

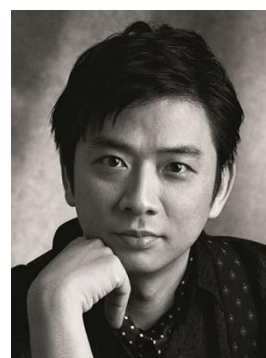
株式会社ワーナーミュージック・ジャパン、株式会社オルタナティブ・マシン



### アキラ:藤木大地

Akira : FUJIKI Daichi

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でボローニャに留学後、ウィーンに拠点を置き、ウィーン国立音楽大学大学院で文化経営学を専攻。11年、ローマ国際宗教音楽コンクールファイナリスト。12年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表に2年連続で選出、世界大会ファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年5月、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパ・デビュー。翌月同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロ役で出演、国際的に高い評価を得る。17年4月にライマン『メデア』ヘロルド役でウィーン国立歌劇場にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして史上初の快挙で、現地の聴衆から熱狂的に迎えられた。国内では主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルで活躍しており、村上春樹原作の映画「ハナレイ・ベイ」主題歌も担当。18年10月にはメジャー・デビュー・アルバム「愛のよるこびは」をリリース。バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活躍している。新国立劇場へは03年『フィガロの結婚』ドン・クルツィオへ出演、カウンターテナーとして20/21シーズン開幕公演『夏の夜の夢』オーベロンに出演した。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## エリカ: 三宅理恵

Erika : MIYAKE Rie

東京音楽大学卒業、同大学院修了。バード音楽院特待奨学生修士課程修了。ドーン・アップショウに師事。10年藤沢オペラコンクール奨励賞受賞。これまでに小澤征爾音楽塾『カルメン』フラスキータ、日生劇場『フィデリオ』マルチェリーネ、NHK音楽祭におけるパーヴォ・ヤルヴィ指揮NHK交響楽団『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、その他『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『フィガロの結婚』バルバリーナなど出演。オペラ以外にも、フォーレ『レクイエム』、シューベルト『ミサ曲第5番 変イ長調』、モーツァルト『レクイエム』、『雀のミサ』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』、カール・ジェンキンス『レクイエム』、アンドリュウ・ロイド・ウェパー『レクイエム』等宗教曲のソリストとして活躍。新国立劇場では『パルジファル』花の乙女、鑑賞教室『愛の妙薬』ジャンネッタ、「『ジークフリート』ハイライトコンサート」森の小鳥に出演している。21年4月には『夜鳴きうぐいす』タイトルロール、21/22シーズン『魔笛』パパゲーナにも出演予定。二期会会員。



## ジョージ: 成田博之

George : NARITA Hiroyuki

国立音楽大学声楽科卒業、同大学大学院オペラコース修了。オペラ研修所第10期修了。03年ミトロプーロス国際声楽コンクール（アテネ）最高位など受賞多数。これまでに『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『カルメン』エスカミーリョ、二期会では『ドン・カルロ』ロドリゴ、『リゴレット』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵などに出演。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』ルーシェ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『沈黙』ヴェリニャーノ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『エウゲニ・オネーギン』ザレツキー、『椿姫』ドゥフォーール男爵、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレスなどに出演している。二期会会員。



## ルイジ: 小泉詠子

Luisi : KOIZUMI Eiko

東京藝術大学大学院修士課程、博士課程修了、博士号取得。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。平成24年度文化庁派遣在外研修員としてイタリアに留学。オペラでは、サイトウ・キネン・フェスティバル松本及び日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、東京二期会『ファウストの劫罰』マルグリット、同『リゴレット』ジョヴァンナ、同『ノルマ』アダルジーザ、小澤征爾音楽塾特別演奏会『蝶々夫人』スズキなどに出演。モーツァルト『レクイエム』、『第九』などのソリストとしても活躍。新国立劇場では『イエヌーフア』バレーナ、『魔笛』侍女IIに出演。二期会会員。





# カルメン

Carmen

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

初演:1875年3月3日/パリ・オペラ・コミック座

作曲:ジョルジュ・ビゼー

原作:プロスペル・メリメ

台本:アンリ・メイヤック/リュドヴィク・アレヴィ

## プロダクションについて

現代オペラの一層の普及を目指す新国立劇場が、次の世代を担う青少年に優れた芸術を鑑賞する機会を提供するため1998年から開催している「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、今年で23回目を迎えます。

今年度は、数あるオペラの中でも随一の人気を誇るカルメンを、アレックス・オリエによる新演出で上演します。自由に生きる女性カルメンと彼女の誘惑に魅せられた一途な男ドン・ホセの、燃え上がる愛と悲劇的な結末を鮮烈に描くオペラが、オリエの手によって同時代のドラマとして蘇り、高校生にも鮮烈な印象を与えることでしょう。

## あらすじ

【第1幕】セビリアのタバコ工場前の広場には女工目当てに男たちが集まっている。彼らの一番人気はカルメン。ロマならではの奔放さで男を魅了するが、衛兵の伍長ドン・ホセは彼女に関心がない。そんなホセをからかってカルメンは花を投げつける。呆然とするホセのもとに、母の手紙を持って故郷ナバラから許婚のミカエラが来る。懐かしさに浸っていると、工場内で喧嘩が勃発。騒ぎの張本人カルメンは連行されるが、脱走しようとホセを誘惑。「リリヤス・パステアの酒場で待っている」との言葉に負けたホセは縄を解き、結果、脱走補助の罪で捕まってしまう。

【第2幕】リリヤス・パステアの酒場に人気闘牛士エスカミーリョが来てカルメンを口説くが、彼女は相手にしない。釈放されたホセをカルメンが踊りでもてなしていると、帰郷の時刻に。カルメンを愛していても帰ろうとする真面目なホセだが、鉢合わせした上官スニガに刃向かってしまう。スニガはカルメンの密輸団仲間ダンカイロらに捕らえられ、ホセは密輸団に加わる決意をする。

【第3幕】人気のない岩山にいる密輸団。カルメンはすでにほかの男に心移りしているようで、ホセにつれない態度を取る。女たちはカルタ占いに興じるが、カルメンが占うと、自分もホセも死ぬという結果に、愕然とする。そんなとき、ホセの母が危篤だとミカエラが知らせにやってくる。ホセは、ミカエラとともに故郷に帰る。エスカミーリョの恋人になったカルメンは、試合を見に闘牛場へ。ホセも故郷から戻り、彼女を探していた。闘牛場の外で対峙する2人。やり直そうと迫るホセに、カルメンは、自由に生まれて自由に死ぬと言い放ち、ホセからもらった指輪を投げつける。思い余ったホセはカルメンを刺す。ホセは、倒れたカルメンの上に泣き崩れる。

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021

ジョルジュ・ビゼー

# カルメン

Georges BIZET / Carmen

全3幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 .....	沼尻竜典
Conductor	NUMAJIRI Ryusuke
演出 .....	アレックス・オリエ
Production	Alex OLLÉ
美術 .....	アルフォンス・フローレス
Set Design	Alfons FLORES
衣裳 .....	リュック・カステイス
Costume Design	Lluc CASTELLS
照明 .....	マルコ・フィリベック
Lighting Design	Marco FILIBECK

(7月9日・13日・15日)

(7月10日・14日・16日)

カルメン.....	山下牧子	谷口睦美
Carmen	YAMASHITA Makiko	TANIGUCHI Mutsumi
ドン・ホセ.....	村上公太	清水徹太郎
Don José	MURAKAMI Kota	SHIMIZU Tetsutaro
エスカミーリョ.....	須藤慎吾	青山 貴
Escamillo	SUDO Shingo	AOYAMA Takashi
ミカエラ.....	石橋栄実	吉田珠代
Micaëla	ISHIBASHI Emi	YOSHIDA Tamayo
スニガ.....	大塚博章	松森 治
Zuniga	OTSUKA Hiroaki	MATSUMORI Osamu
モラレス.....	星野 淳	森口賢二
Moralès	HOSHINO Jun	MORIGUCHI Kenji
ダンカイロ.....	成田博之	迎 肇聡
Le Dancaire	NARITA Hiroyuki	MUKAI Tadatoshi
レメンダード.....	升島唯博	山本康寛
Le Remendado	MASUJIMA Tadahiro	YAMAMOTO Hiroyasu
フラスキータ.....	平井香織	佐藤路子
Frasquita	HIRAI Kaori	SATO Michiko
メルセデス.....	但馬由香	森 季子
Mercédès	TAJIMA Yuka	MORI Tokiko

合唱 .....

新国立劇場合唱団、びわ湖ホール声楽アンサンブル

Chorus

New National Theatre Chorus, BIWAKO HALL Vocal Ensemble

管弦楽 .....

東京フィルハーモニー交響楽団

Orchestra

Tokyo Philharmonic Orchestra

\* 本公演は、びわ湖ホールとの提携により上演されます。

助成：公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**

協賛：**ローム株式会社**  **損保ジャパン**

2021年	7月	9日(金)13:00	10日(土)13:00	13日(火)13:00
		14日(水)13:00	15日(木)13:00	16日(金)13:00

【チケット料金】2,200円(高校生ののみ) 残席がある場合に限り当日料金:2,200円(高校生以下)/4,400円(一般)  
【会場】オペラパレス

# ドン・パスクワレ

## Don Pasquale

ロームシアター京都メインホール | 2回公演 | 全3幕(イタリア語上演/日本語字幕付)

初演:1843年1月3日/パリ・イタリア劇場

作曲:ガエターノ・ドニゼッティ

原作:ステファノ・パヴェージのオペラ『マルカントーニオ氏』のアンジェロ・アネッリの台本による

台本:ジョヴァンニ・ルッフィーニ、ガエターノ・ドニゼッティ

### プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は2008年から関西公演が始まり、今回で14回目を迎えます。2016年より会場をロームシアター京都へ移し、『フィガロの結婚』『蝶々夫人』『魔笛』と上演を重ねてきました。今回はドニゼッティの代表作『ドン・パスクワレ』を上演します。オーソドックスながら繊細な表現や効果的な展開に感性が光るヴィツィオーリ版は、世界中各地で上演されてきた人気プロダクションです。新国立劇場での新制作上演時は、オペラの楽しさの真髄を伝えるものとして大評判となりました。



2019年公演より

### あらすじ

【第1幕】裕福な独身老人ドン・パスクワレは主治医マラテスタに花嫁探しを依頼した。実はパスクワレの甥エルネストの親友でもあるマラテスタは、妹ノリーナを薦める。エルネストの恋人ノリーナをパスクワレと結婚させ辟易させて、逆にエルネストとの結婚を認めさせようという魂胆だ。エルネストが伯父の勧める結婚話を断ると、パスクワレは自分が結婚して子を設けると宣言。エルネストは財産を相続してノリーナを迎える夢が破れ嘆く。ノリーナが小説の中の騎士に寄せコケティッシュに恋心を歌っていると、エルネストからローマを去るという手紙が届き驚く。マラテスタが来て計略を説明し、ノリーナをパスクワレ好みのうぶな娘に仕立て上げる。

【第2幕】パスクワレのもとへ、マラテスタがヴェールで顔を覆った女性を連れて登場、修道院出の妹ソフローニャと紹介する。パスクワレはすっかり気に入り、結婚式を執り行う。ノリーナが結婚の署名をする瞬間エルネストが入って来るが、マラテスタが素早く言いくるめノリーナ、そしてエルネストも証人として署名する。式が終わった途端ノリーナの態度が豹変し、あれこれと注文を始め、大騒ぎとなる。

【第3幕】パスクワレ家はノリーナが買い物をした請求書の山。ノリーナが着飾って劇場へ行くと言い出し、止める夫を平手打ちする。ノリーナはわざと逢引の手紙を落としていき、パスクワレは大憤慨する。夜、庭でセレナーデを歌うエルネストの前にノリーナが登場。パスクワレとマラテスタがノリーナを捕らえる。逆上したパスクワレが離縁を命じ、エルネストの結婚を許すと告げると、マラテスタがノリーナはここにいると言う。驚くパスクワレにマラテスタは自分の計略を明かし、パスクワレも許して若い二人を祝福する。

ガエターノ・ドニゼッティ

# ドン・パスクワレ

Gaetano DONIZETTI / Don Pasquale

全3幕(イタリア語上演/日本語字幕付)

指揮 .....	阪 哲朗
Conductor	BAN Tetsuro
演出 .....	ステファノ・ヴィツイオーリ
Production	Stefano VIZIOLI
美術 .....	スザンナ・ロッシ・ヨスト
Set Design	Susanna Rossi JOST
衣裳 .....	ロベルタ・グイディ・ディ・バーニョ
Costume Design	Roberta Guidi di BAGNO
照明 .....	フランコ・マツリ
Lighting Design	Franco MARRI

ドン・パスクワレ .....	久保田 真澄
Don Pasquale	KUBOTA Masumi
マラテスタ .....	森口 賢二
Dottore Malatesta	MORIGUCHI Kenji
エルネスト .....	中井 亮一
Ernesto	NAKAI Ryoichi
ノリーナ .....	九嶋香奈枝
Norina	KUSHIMA Kanae

ほか

合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	京都市交響楽団
Orchestra	City of Kyoto Symphony Orchestra

主 催: 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場

助 成: 公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**

協 賛: **ローム株式会社**

2021年 10月 26日(火)13:00

27日(水)13:00

【チケット料金】 2,200円(高校生のみ) 残席がある場合に限り当日料金:2,200円(高校生以下)/4,400円(一般)

【会 場】 ロームシアター京都 メインホール

# Opera

公演一覧

開場記念公演～2020/2021 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997. 10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997. 11/22
	アイダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼツフィレリ	1998. 1/15
1998/ 1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 4/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒヤエル・ハンペ	1998. 5/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998. 6/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998. 9/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998. 10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998. 11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999. 1/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999. 2/13
	こうもり*	J.シュトラウス II 世	北原幸男	寺崎裕則	1999. 4/21
	罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999. 6/18
	1999/ 2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ
マノン・レスコー*		G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999. 11/06
蝶々夫人		G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュティ	栗山昌良	1999. 12/18
ドン・ジョヴァンニ*		W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000. 1/16
セビリアの理髪師		G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗國淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000. 2/20
沈黙*		松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000. 3/16
サロメ*		R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファーディング	2000. 4/11
ドン・キホット*		J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000. 5/07
リゴレット*		G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000. 6/11
2000/ 2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000. 9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒヤエル・ハンペ	2000. 10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ポクロフスキー/ヴェラ・カルパチョワ	2000. 10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000. 11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000. 12/02
	イルトロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001. 1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 2/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001. 3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001. 5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001. 6/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	2001. 7/05
2001/ 2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001. 9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001. 11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002. 1/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002. 1/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002. 2/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002. 3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファーディング	2002. 5/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 5/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティエーア	2002. 6/07

★＝新制作



シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/ 2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002. 9/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴァンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァーニ	2002. 10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2002. 10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッタ	アルベルト・ファッシーニ	2002. 11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002. 12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003. 1/17
	アラベッタ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003. 1/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003. 3/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2003. 4/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003. 6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	2003. 9/14
2003/ 2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003. 10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 11/09
	ホフマン物語*	G.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003. 11/28
	鳴神／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004. 1/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004. 2/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファアーディンク	2004. 2/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004. 3/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004. 5/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004. 6/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 6/28
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師*	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004. 9/09
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	粟國 淳	2004. 9/25
	エレクトラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004. 11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004. 11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005. 1/17
	ルル*	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005. 2/08
	おさん―「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	粟國 淳	2005. 2/25
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	2005. 3/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005. 4/07
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2005. 5/28
蝶々夫人*	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005. 6/24	
2005/ 2006	ニルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005. 9/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005. 10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジヨルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005. 11/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005. 11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	2006. 1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	2006. 2/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006. 2/17
	運命のカ*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006. 3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイーダ	グリシャ・アサガロフ	2006. 4/05
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006. 6/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 9/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006. 10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006. 12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007. 2/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチャーニ	エミリオ・サージ	2007. 3/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007. 3/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007. 4/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/06
ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/13	
2007/ 2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007. 10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007. 10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・バルバチャーニ	栗國 淳	2008. 1/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファアーディング	2008. 2/03
	黒船 一夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008. 2/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼツフィレツリ	2008. 3/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008. 4/10
	軍人たち*	B.A.ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008. 5/05
椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008. 6/05	
2008/ 2009	トウーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008. 10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008. 10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリックス	グリシャ・アサガロフ	2008. 12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009. 1/12
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009. 1/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 3/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 4/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009. 5/01
	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ポネル	2009. 6/07
修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009. 6/25	
2009/ 2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009. 9/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009. 10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒエン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009. 11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 2/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 3/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	2010. 4/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010. 5/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・バルバチャーニ	鶴山 仁	2010. 6/10
鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	2010. 6/24	
2010/ 2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010. 10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010. 10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010. 11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010. 12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011. 2/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011. 2/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤー＝ホーファー	ジョナサン・ミラー	2011. 4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアノ・ミキエレット	2011. 5/29
蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011. 6/06	

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペーター	2011. 10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファアーディング	2011. 10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011. 11/23
	こうもり	J.シュトラウス二世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011. 12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリックス	栗國 淳	2012. 1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012. 2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 3/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケニック	マリオ・マルトーネ	2012. 4/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012. 4/19
ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 6/01	
2012/ 2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012. 10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012. 11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	カルロ・モンターネロ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2012. 11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリックス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013. 1/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	2013. 1/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒヤエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013. 3/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒヤエル・ハンペ	2013. 4/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013. 5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアーノ・ミキエレット	2013. 6/03
夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013. 6/25	
2013/ 2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013. 10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013. 10/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013. 11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鶴山 仁	2014. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014. 1/30
	死の都*	E.W.コロンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014. 3/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014. 4/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ /道化師*	P.マスカーニ/ R.レオンカヴァッロ	レナート・パルンボ	ジルベール・デフロ	2014. 5/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014. 5/22
鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鶴山 仁	2014. 6/19	
2014/ 2015	バルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クブファー	2014. 10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014. 10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	2014. 11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015. 1/18
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015. 1/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015. 3/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015. 4/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015. 5/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015. 5/24
沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015. 6/27	
2015/ 2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015. 10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルバルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015. 11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015. 12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒヤエル・ハンペ	2016. 1/24
	イエヌーファ*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016. 2/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファアーディング	2016. 3/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016. 4/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダノ	ヤデル・ピニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016. 4/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016. 5/23
夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016. 7/01	

★=新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/ 2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016. 10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	粟國 淳	2016. 11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016. 11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鶴山 仁	2017. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017. 2/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャン・パオロ・ビザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017. 3/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017. 4/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017. 4/20
ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 6/01	
2017/ 2018	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブサル	2017. 11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017. 11/30
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018. 1/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシヤ・ヴァルツ	2018. 2/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバステリアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018. 2/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チェーザレ・リエヴィ	2018. 3/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018. 4/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018. 5/20
トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/01	
2018/ 2019	魔笛*	W.A.モーツァルト	ローラント・ベアー	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン＝リュック・タンゴー	鶴山 仁	2018. 11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	ジョナサン・ミラー	2018. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス＝ペーター・レーマン	2019. 1/27
	紫苑物語*	西村 朗	大野和士	笈田ヨシ	2019. 2/17
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019. 3/19
	フィレンツェの悲劇 /ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキー /G.プッチーニ	沼尻竜典	粟國 淳	2019. 4/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	カーステン・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019. 5/17
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019. 6/01
トゥーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019. 7/18	
2019/ 2020	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	アンドリー・ユルケヴィチ	ドミトリー・ベルトマン	2019. 10/01
	ドン・パスクワレ*	G.ドニゼッティ	コラード・ロヴァーリス	ステファノ・ヴィツィオーリ	2019. 11/09
	椿姫	G.ヴェルディ	イヴァン・レブシッチ	ヴァンサン・ブサル	2019. 11/28
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・カリニャーニ	粟國 淳	2020. 1/24
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2020. 2/06
	ゴジ・ファン・トゥッテ(公演中止)	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	ダミアノ・ミキエレット	
	ジュリオ・チェーザレ*(公演中止)	G.F.ヘンデル	リナルド・アレクサンドリーニ	ロラン・ベリー	
	ホフマン物語(公演中止)	J.オッフェンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	
	サロメ(公演中止)	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリンクス	アウグスト・エファアーディング	
ニルンベルクのマイスタージンガー* (公演中止)	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク		
2020/ 2021	夏の夜の夢*	B.ブリテン	飯森範親	レア・ハウスマン (デイヴィッド・マクヴィカーの演出に基づく)	2020. 10/04
	アルマゲドンの夢*	藤倉 大	大野和士	リディア・シュタイアー	2020. 11/15
	こうもり	J.シュトラウス二世	クリストファー・フランクリン	ハインツ・ツェドニク	2020. 11/29
	トスカ	G.プッチーニ	ダニエレ・カッレガーリ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2021. 1/23
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2021. 2/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	大野和士/城谷正博	ゲッツ・フリードリヒ	2021. 3/11
	夜鳴きうぐいす /イオランタ*	I.ストラヴィンスキー /P.チャイコフスキー	高関 健	ヤニス・コッコス	2021. 4/04
	ルチア	G.ドニゼッティ	スペランツァ・スカッブッチ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2021. 4/18
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	2021. 5/20
カルメン*	G.ビゼー	大野和士	アレックス・オリエ	2021. 7/03	

★＝新制作

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙(ザ・カレッジ・オペラハウス)	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005. 9/16
平成 18 年度	フィガロの結婚(ひろしまオペラハウス)	W.A.モーツァルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006. 10/15
平成 19 年度	ナクソス島のアリアドネ(関西二期会)	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008. 1/25
平成 21 年度	月を盗んだ話(札幌室内歌劇場)	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010. 1/13
平成 23 年度	鳴砂(仙台オペラ協会)	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011. 7/30
平成 25 年度	三文オペラ(びわ湖ホール)	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013. 7/12
平成 27 年度	いのち(長崎県オペラ協会)	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015. 7/25
平成 29 年度	ミカド(びわ湖ホール)	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017. 8/26
令和 2 年度	竹取物語(びわ湖ホール) (公演中止)	沼尻竜典	沼尻竜典	栗山昌良	

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000. 6/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	栗國 淳	2000. 9/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v. ウェーバー ／A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000. 12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001. 4/19
	花言葉	R.ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001. 10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002. 2/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿(告白)	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002. 4/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002. 9/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003. 1/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァニーガ	松岡 究	今井伸昭	2003. 5/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003. 11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	栗國 淳	2004. 2/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	高岸未朝	2004. 6/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部讓二	恵川智美	2005. 3/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006. 1/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007. 2/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ベレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008. 6/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009. 5/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011. 5/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012. 4/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人(演奏会形式)	R.ワーグナー	城谷正博		2015. 1/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017. 5/17

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ~楽しいトークとハイライト上演~	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 12/02

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 7/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999. 7/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000. 7/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001. 7/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002. 7/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003. 7/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 7/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005. 7/11
平成 18 年度	カヴァレリア・アルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシヤ・アサガロフ	2006. 7/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007. 7/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008. 7/11
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008. 11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009. 10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鶴山 仁	2010. 7/12
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010. 10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011. 7/11
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チャーザレ・リエヴィ	2011. 10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	栗國 淳	2012. 7/12
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チャーザレ・リエヴィ	2012. 10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チャーザレ・リエヴィ	2013. 7/10
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013. 10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014. 7/09
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014. 11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015. 10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016. 7/09
	フィガロの結婚(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016. 10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017. 7/10
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017. 10/30
平成 30 年度	トスカ	G.プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2018. 7/06
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/29
令和 元年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	飯森範親	栗山民也	2019. 7/06
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2019. 10/28
令和 2 年度	夕鶴(公演中止)	團 伊玖磨	三ツ橋敬子	栗山民也	
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2020. 10/27

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004. 8/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005. 7/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006. 7/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007. 7/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008. 7/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009. 7/24
平成 23 年度	バルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー 「バルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011. 7/22

---

# MEMO

---

# MEMO